
平成26年 第2回(定例)日出町議会会議録(第2日)

平成26年6月9日(月曜日)

議事日程(第2号)

平成26年6月9日 午前10時00分開議

開議の宣告

請願の上程

議案質疑

- 日程第1 承認第1号 平成25年度日出町一般会計補正予算(専決第1号)について
- 日程第2 承認第2号 平成25年度日出町簡易水道特別会計補正予算(専決第1号)について
- 日程第3 承認第3号 平成25年度日出町公共下水道事業特別会計補正予算(専決第1号)について
- 日程第4 承認第4号 日出町国民健康保険税条例の一部改正について(専決処分)
- 日程第5 承認第5号 日出町税条例の一部改正について(専決処分)
- 日程第6 承認第6号 日出町税特別措置条例の一部改正について(専決処分)
- 日程第7 議案第28号 平成26年度日出町一般会計補正予算(第1号)について
- 日程第8 議案第29号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について
- 日程第9 議案第30号 日出町情報公開・個人情報保護審査会の設置に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
- 日程第10 議案第31号 日出町税条例の一部改正について
- 日程第11 議案第32号 日出町手数料条例の一部改正について
- 日程第12 議案第33号 物品の購入について
- 日程第13 同意第3号 日出町職員懲戒審査委員会委員の任命について
- 日程第14 同意第4号 日出町職員懲戒審査委員会委員の任命について
- 日程第15 報告第1号 平成25年度日出町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について
- 日程第16 報告第2号 平成25年度日出町公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について
- 日程第17 報告第3号 平成25年度日出町介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について

日程第18 報告第4号 日出町土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について
議案及び請願の委員会付託

日程第19 一般質問
散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

請願の上程

議案質疑

日程第1 承認第1号 平成25年度日出町一般会計補正予算（専決第1号）について

日程第2 承認第2号 平成25年度日出町簡易水道特別会計補正予算（専決第1号）
について

日程第3 承認第3号 平成25年度日出町公共下水道事業特別会計補正予算（専決第
1号）について

日程第4 承認第4号 日出町国民健康保険税条例の一部改正について（専決処分）

日程第5 承認第5号 日出町税条例の一部改正について（専決処分）

日程第6 承認第6号 日出町税特別措置条例の一部改正について（専決処分）

日程第7 議案第28号 平成26年度日出町一般会計補正予算（第1号）について

日程第8 議案第29号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について

日程第9 議案第30号 日出町情報公開・個人情報保護審査会の設置に伴う関係条例の
整備に関する条例の制定について

日程第10 議案第31号 日出町税条例の一部改正について

日程第11 議案第32号 日出町手数料条例の一部改正について

日程第12 議案第33号 物品の購入について

日程第13 同意第3号 日出町職員懲戒審査委員会委員の任命について

日程第14 同意第4号 日出町職員懲戒審査委員会委員の任命について

日程第15 報告第1号 平成25年度日出町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告につ
いて

日程第16 報告第2号 平成25年度日出町公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計
算書の報告について

日程第17 報告第3号 平成25年度日出町介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書の
報告について

日程第18 報告第4号 日出町土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について
議案及び請願の委員会付託

日程第19 一般質問
散会の宣告

出席議員（16名）

1番	岡山 栄蔵君	2番	阿部 真二君
3番	上野 満君	4番	金元 正生君
5番	川西 求一君	6番	岩尾 幸六君
7番	土田 亮治君	8番	池田 淳子君
9番	工藤 健次君	10番	安部 三郎君
11番	森 昭人君	12番	白水 昭義君
13番	佐藤 隆信君	14番	佐藤 二郎君
15番	城 美津夫君	16番	熊谷 健作君

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	小野裕一郎君	次長	安田加津浩君
----	--------	----	--------

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤 義見君	副町長	今宮 禮二君
教育長	西野 智行君	会計管理者兼会計課長	...	阿部 孝君
総務課長	村井 栄一君	財政課長	川野 敏治君
政策推進課長	井川 功一君	契約検査室長	佐藤 義人君
税務課長	脇 英訓君	住民課長	佐藤久美子君
福祉対策課長	原田 秀正君	健康増進課長	高倉 伸介君
生活環境課長	佐藤 寛爾君	商工観光課長	河野 晋一君
農林水産課長	岡野 修二君	都市建設課長	村岡 政廣君
上下水道課長	大塚 一路君	農業委員会事務局長	...	宮本 洋二君

教育委員会教育総務課長 …… 宇都宮敏樹君 教育委員会学校教育課長 …… 恒川 英志君
生涯学習課長 …………… 野上 悟君 監査事務局長 …………… 岩尾 修一君
総務課長補佐 …………… 藤本 英示君 財政課長補佐 …………… 帯刀 志朗君

午前10時01分開議

○議長（熊谷 健作君） 皆さん、おはようございます。引き続きご苦労さまです。

開議の宣告

○議長（熊谷 健作君） ただいまの出席議員は16名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

本日の会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

請願の上程

○議長（熊谷 健作君） 本日まで受理した請願2件につきましては、お手元に配付いたしましたとおりであります。

なお、請願につきましては、写しにより説明を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、請願については、説明を省略することに決定しました。

議案質疑

日程第1. 承認第1号

日程第2. 承認第2号

日程第3. 承認第3号

日程第4. 承認第4号

日程第5. 承認第5号

日程第6. 承認第6号

日程第7. 議案第28号

日程第8. 議案第29号

日程第9. 議案第30号

日程第10. 議案第31号

日程第 1 1. 議案第 3 2 号

日程第 1 2. 議案第 3 3 号

日程第 1 3. 同意第 3 号

日程第 1 4. 同意第 4 号

日程第 1 5. 報告第 1 号

日程第 1 6. 報告第 2 号

日程第 1 7. 報告第 3 号

日程第 1 8. 報告第 4 号

○議長（熊谷 健作君） 日程第 1、承認第 1 号平成 2 5 年度日出町一般会計補正予算（専決第 1 号）についてから、日程第 1 8、報告第 4 号日出町土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出についてまでの、承認 6 件、議案 6 件、同意 2 件、報告 4 件を一括上程し議題とします。

これより、議案質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） なければ、これで質疑を終わります。

議案及び請願の委員会付託

○議長（熊谷 健作君） ただいま、議題となっております承認 6 件、議案 6 件、同意 2 件、請願 2 件をお手元に配付しております付託表のとおり、それぞれの所管の常任委員会に付託したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって承認 6 件、議案 6 件、同意 2 件、請願 2 件をそれぞれの所管の常任委員会に付託することに決定しました。

日程第 1 9. 一般質問

○議長（熊谷 健作君） 日程第 1 9、一般質問を行います。

なお、議会報編集特別委員会委員長より、議会報編集のため、一般質問者の写真撮影の許可の申し出がありましたので、これを許可します。

それでは、順次質問を許します。1 番、岡山栄蔵君。1 番。

○議員（1 番 岡山 栄蔵君） おはようございます、岡山栄蔵です。初めての経験ですので、大変緊張しておりますが、私も多くの町民の方々から御支援をいただき、今、この場に立ち、一般質問の機会を与えていただいております。この機会を与えていただいた皆様に、大変感謝しております。

近年、我が国を取り巻く情勢は刻々と変化し、少子高齢化に伴う、社会の活力低下や、地域コミュニティの衰退、地域、文化、風習、伝統の喪失、東日本大震災を初めとする自然災害の脅威など、地方における課題が山積みになった結果、地域や企業が必要とする人材像は急速に変化してまいりました。

さらに、長引く不況により、地方経済の疲弊と、雇用の低迷によって、都心部へと若者が流出し、地域の活性化を担う人材の確保が急務となっております。

そのような中、地方で若者に寄せられる期待は大きく、私自身、1人でも多くの町民の皆様の御意見を参考に、地域の代弁者として、若者の代弁者として、この4年間さまざまな質問をさせていただきまします。今回は、傍聴に來れない若い世代の方がホームページなどをごらんになって議事録を見たいと思います。わかりやすい回答をお願いいたします。

それでは、通告書の内容に従い、2つの柱で質問させていただきます。

1つ目は、今後予想される南海トラフ巨大大地震、大型台風、異常気象での大規模ゲリラ豪雨、豪雪など、自然災害における対策についてお聞きします。

まず、災害発生時における初対応についてです。

日出町においては、防災マップなどの作成を初め、災害に対する対策については、さまざまな検討がなされていると私は感じております。災害が起きる前の対策としてですが、各地域での住民の避難経路、避難所の周知策はどのように行っているかお聞きします。

次の質問からは、質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長、村井栄一君。

○総務課長（村井 栄一君） 岡山議員の御質問にお答えします。

避難所、並びに避難経路に関してですが、それぞれの自治区で避難訓練の中で区長さんを中心に、地域の皆さんで話し合いを行い、避難経路を、経路図を作成しております。作成し、地区住民に周知をしてるところであります。

避難経路図を作成するに当たり、昨年4月には大字ごとの一時避難所や、自治公民館などを記載した防災マップを配付しております。自治公民館の52カ所や、地区公民館16カ所を掲載しております。

また、避難訓練で実際にその経路を通して、一時避難場所までの避難を行い、終了後に避難場所や避難経路が適当であるか、途中で危険な場所はないかなどを話し合う検証会議等を開催してもらっております。

避難場所には、地区住民への周知と、防災意識の高揚を図るため、避難所看板等を設置するとともに、必要な箇所については避難地の整備を現在行っているところあります。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 1 番。

○議員（1 番 岡山 栄蔵君） では、災害が起きたあとの対応について、これはどうでしょうか。

災害から無事身を守ることができたあとの二次災害、これから身を守るために、私は情報の確保が重要だと思っております。

そこで、2 点お聞きします。

災害発生時、もしくは災害発生可能性大の情報があり次第、即座に災害対策本部を設置するわけですが、情報の収集、伝達はどのように行いますか、また、各地域、行政区での防災士、防災リーダーの育成は行っていますか。今の現状と、これからの予定などをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 災害時の情報収集や、伝達につきましてであります。災害が発生した段階で、大規模災害につきましては、国の危機管理対策期間から発信する警報、一応 J—A L E R T と言ってるんですが、それと連動し、地域に放送する防災行政無線を 2 9 年度末までに 4 1 基計画しております。

現在まで、2 5 基、約 1 億 3 0 0 万程度の金額をかけまして、2 5 年度末までに 2 5 基を各地区に設置しているところであります。

防災行政無線や、携帯電話を使った緊急速報メールなどの手段を使い、早急に情報を地域にお知らせするようにしております。

また、情報の収集に関しましては、消防団を初め、災害発生時の地区情報収集員は職員であります。職員を各地区に配置しておりますので、職員や、あと自治区の区長さん方に要請をいたしまして、最新情報の収集をするように計画をしてるところであります。

また、地域の防災リーダーの育成であります。昨年 1 1 月に区長 9 名、防災士 8 名、小中学校の防災担当の先生 8 名、職員 3 名、計 2 8 名を東北大震災の岩手、宮城両県に派遣いたしまして、津波の被害状況の視察してもらい、地域での防災活動に積極的に取り組んでもらうようにしているところであります。

また、平成 2 3 年度から、日本防災士機構が認定します、防災士の資格を取得するように計画してる、力を入れているところであります。

各行政区に最低 1 人の防災士を配置するようにはしてるところであります。その中で経費を若干町のほうが区から推薦された方につきましては、町のほうが全部経費を負担しているところあります。

これまでに、1 2 5 人の防災士が誕生しているところであります。町内 7 7 自治区があるんですが、防災士がいない地区が、まだ 1 3 地区程度ありますので、今年度も引き続きいない地区に積極的に働きかけ、全ての地区に防災士の配置を計画しているところであります。

今年度も60人程度の防災士を育成するようしております。

地区には、自主防災組織というのを立ち上げてるんですが、自主防災組織につきましては、自治区ごとに立ち上げております。地域によっては、毎年避難訓練等を行ってるところもありますし、組織をつくってるだけという、そういうところもあるんですが、今後は区長さんを中心に地区の防災士を設置しておりますので、積極的に防災訓練をしてもらいたいと考えてるところであります。

町といたしましても、さらなる防災意識の向上を図るため、防災士さんを育成しましたので、ことし5月には防災士会というのを立ち上げてまして、防災士一人一人の技能向上と、防災リーダーとしての意識の向上を図ってもらうために、防災士のスキルアップを図ってるところであります。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） 防災士と消防団、役割は違うと思いますが、今現在消防団の条例定数は320名と、明確な目標を掲げていますが、実際の団員数は298名と年々入団する方も少なく、団員の方の年齢層も高くなっているのが現状だと思います。

例えば、少年消防団クラブなどを設立して、子供のころから防火や防災についての正しい知識を身につけたり、放水や応急手当などの訓練を行って、常日頃から火災や救命についての防災意識を高めてもらうことで、今後団員の育成などにつながるのではないかと考えております。

各地域の消防団、防災士の方や行政が情報の共有をして、町民の方々が自分たちの地域は自分たちで守るんだと思ってもらえるような環境をつくってはどうかと思います。

次に、防災訓練であります。

一部の地域や学校では実施してると思いますが、地域によってはさまざまなパターンでの訓練が必要だと思います。現在行っている防災訓練や、実施予定などありましたら、お聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 防災訓練に関しましては、平成23年3月11日の東日本大震災の発生を受けまして、日出町としても地震及び津波の備えが最重要課題であると認識してるところであります。

防災無線の整備を初めとして、さまざまな防災対策を実施しておりますが、その中で町内の防災訓練の実施状況でございますが、昨年度は南海トラフ巨大地震が発生した際に、町内で津波による浸水被害が想定される湾岸部の25地区に、津波避難訓練の実施を強く働きかけ、現在までに18自治区の訓練が完了しております。まだ、実施してない自治区が7地区あるんですが、こ

の地区も今年度にはできるだけ訓練をお願いしたいと、自治区長さん方をお願いしてるところであります。

各地区とも多くの方が参加していただきまして、湾岸部だけで参加人数につきましては、1,400名が若干切れるぐらいの関係者含めまして参加していただいております。

また、それ以外でも、昨年度は辻間団地、日出団地、合同4地区が避難訓練や炊き出し訓練を実施しまして、またあと、藤原中部では、初期消火訓練というのをやっております。今後も町といたしまして、各、全地区は無理にしても、各地区に避難訓練や初期消火訓練という訓練意識、地元の方が自分たちのことは自分たちで守るんだという意識の向上の努める訓練を今後も積極的に実施していきたいと考えてるところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） 今現在行われているのは、海岸沿いの津波に対する防災訓練のようですが、近年、道路整備、メガソーラー建設での人為的排水処理では対応できないゲリラ豪雨など、平成24年7月12日から14日に発生した、大分県北西部豪雨を教訓にこれまで経験したことの無いような想定外の大雨による土砂災害も想定しながら、山間部での防災訓練なども行ってはどうかと思います。

中心部での防災訓練としましても、商業施設と連携を強化し、企業と共通の課題に協力して取り組むことで参加者が個々に創意工夫して行動する訓練になると思います。

日出町では、6つの地区77の自治会の数があると、なかなか単位別での避難訓練は厳しいと思います。先ほども申しましたが、災害から身を守るのは行政だけが行うものではなく、地域の方々も一緒に考えなければならないことです。通常の避難訓練よりも、夜間の訓練であったり、宿泊訓練であったり、今までにはない取り組みをぜひ積極的に企画して実施してもらいたいなど強く思いました。

毎回同じ防災訓練をやっている、やはりマンネリ化してきますので、それがやっぱり一番よくないと感じております。現実味のある防災訓練のレベルアップを望んでいます。

続いて、災害発生時の災害弱者と呼ばれる方についての初対応です。

災害弱者には高齢者の方、障がいを持たれてる方、妊婦さん、また子供なども含まれると思います。本日は、その災害弱者の方の視点から質問したいと思います。

それでは、災害発生時における初対応、現在備蓄されている防災用品について3点ほどお聞きします。

1点目に災害弱者への避難対策はどのような計画があるのでしょうか。2点目に、日出町には15カ所の防災倉庫が設置されていると思います。非常備蓄品の数量ですが、世帯の少ない地域

と多い地域に差がないのはどうしてでしょうか。例えば、南畑小中学校の防災倉庫での想定人数は20名。いろんな備蓄品がありますが、その中で飲料水24本、クラッカー120個、大神中学校防災倉庫での想定人数は300名、それに対して飲料水24本、クラッカー120個、これは先日いただいた日出町防災倉庫非常備蓄品一覧の中からですが、これから先想定人数に見合う数量の確保、並びに倉庫の増設はあるのでしょうか。

3点目は、ふやしてほしい用品ですが、トランシーバーやサランラップ。サランラップは皿として使えたり、負傷時包帯のかわりになります。東日本大震災では、衛生面や、医療面で本当に役に立ったそうです。高額なものではないと思うので、ぜひ、検討の余地がないかお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） まず1点目の災害弱者についてであります。

災害弱者というのは、女性や子供、高齢者などが含まれると考えてるところであります。

現在、日出町では、災害時要援護者名簿を作成しております。各区長さん初め、民生委員さんの御協力を得ながら、手挙げ方式で行ってるわけですが、法令改正等によりまして、この名簿につきましても各関係機関で共有できるようになっておる次第であります。

現在、町内で1,251名の方が登録しております。こういう方々につきまして、まず行政ができるというのは限界がございますので、隣近所の方の、例えば見守りとか、そういう部分で災害時の発生に初期対応をお願いしたいと思ってるところであります。

各種、いろんな資料を見ますと、行政が実際災害が起こった段階で対応できるのは3日後ぐらいから、それぞれの災害にはよりますが、最低3日間は自分たちで何とかしのいでいただきたいというのが現状ではなかろうかと考えております。

それにつきましては、常に隣近所の方の助力といいますか、手伝いが欠かせないことだと考えるところであります。

日出町は幸いにして都会化は進んでおりますが、隣近所のコミュニティーがまだ十分生きておりますので、地区長さんを中心にそういう災害弱者の方の避難とか、そういう部分につきまして、御助力をお願いしたいと思っておるところであります。

続きまして、防災倉庫の件であります。各現在町内で15カ所の防災倉庫を設置してるところであります。各地区ごとによりまして、先ほど議員さんがおっしゃられるとおり、ニーズに関係なく、若干多いところと少ないところがあるんですが、あくまでもこれは町内全体で1,760名分ぐらいの倉庫に避難の分をしておりますので、例えば藤原が悪くなったら、大神から持って行くとか、南端が悪くなったときには豊岡から持って行くとか、そういう部分で何とか対応を今の現在は計画しているところであります。

今後、防災倉庫等につきましても、できれば各自治区に設置をお願いしながら、必要箇所については町のほうでするし、自治区の自主的な設置に対しては、助成措置も今計画してるところであります。ぜひこういう部分をお願いしながら区長さんを中心に自治区の中でそういう話し合いとか、座談会で町のほうもぜひともそういう部分をお願いしたいと思っております。

防災倉庫も、今現在15カ所してるんですが、県の補助事業とか、今使ってやっておりますので、できるだけ手挙げ方式もありますし、町として必要な箇所については検討しながら、ぜひとも設置をやっていききたいと思っております。

多ければ多いほど備蓄はよかろうと思っております。中にも、備蓄に関しましても、東北の震災でいろんな女性の方のいろんな用品や、生活用品、あと日用品とか、そういう部分に対しましても設置をしながら、あと、非常食、アルファ米ですが、非常食、おにぎり、三、四個分ぐらいの非常食を設置しながらやるところであります。なかなかどこまで設置するのがいいのかというのがなかなか今あれなんで、町としてはある程度のところで今してるんですが、今後、十分御意見等いただきながら、どんどん増加をしていききたいと考えてるところであります。

そのほかにも、飲料水につきましても、自動販売機メーカーと今防災協定を結んでおりまして、災害発生時には、大塚製薬や、大塚製薬が8台ありますが、大塚製薬、コカコーラの自動販売機、ペプシの自動販売機等が災害時には全て開放していただいて、町で全部使えるようになっておりますので、そういう部分で、初期的には若干の対応ができるんじゃないかならうかと思っております。

あと、防災倉庫の必要な備品に関しましては、先ほど議員さんおっしゃられるような、その製品の不足してる部分があれば、今後、中にいろんな方の意見を聞きながら不足分はどんどん追加して、倉庫の中がまだあいておりますので設置をしていききたいと思っております。

また、倉庫の管理に関しましては、今、現在消防団に鍵を渡しておるところであります。消防団や自治区と調整しながら地域のいろんな行事で、中には発電機とかいろんな地域で使える部分、一輪車とか、いろんな部分がありますので、地域の行事等でその部分の点検を兼ねて使っていただきたいと思っております。

ぜひ、今後は自治区の区長さん方、消防団とは協議をしながら防災倉庫の管理については検討していききたいと思っております。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 1 番。

○議員（1 番 岡山 栄蔵君） 確かに、まだ防災倉庫ができて間がないと思います。これらは、災害発生時機能しなければ全く意味がないものだと私は思っております。日ごろから使ってもらって、防災倉庫の肥やしにしないよう、消防団の方や、自主防災組織の方にぜひ積極的に呼びかけていただきたいと思っております。

防災については、以上でございます。

続いて、2つ目の柱について質問させていただきます。

新図書館建設についてであります。

最初の質問の前にも申しましたが、少子高齢化、グローバル化、IT化など、急速な社会の変化は、町民の日常生活や社会生活にも大きな影響を及ぼしてきていると思います。

これまで常識とされてきたさまざまな事柄について、知識や考え方の再構築が求められており、町民一人一人がみずから必要な情報を入手して、意思決定することが重要になってきています。

こうした中、これからの図書館には、図書館法に定めるところにより町民の教養、調査研究、レクリエーションなどに資するために必要な各種資料を収集、整理、保存すると書かれています。

従来の基本的な役割に加えて、町民が抱える日常生活上の課題解決や、地域課題などの解決に役立つ資料や、情報を迅速かつ的確に提供するという課題解決支援の役割が強く求められてくると思います。

一方、忙しい現代人にとって、ゆっくり本を読んだり、物事を静かに考えることのできる静かな空間が、地域の中で身近に配置されていることが望ましいし、何よりも図書館の基本が蔵書構成の充実にあるとすれば、多くの町民にとって身近に豊富な蔵書を備えた図書館があることが望ましいと私は思います。

教育長に2点お聞きしたいと思います。

多くの町民が、新図書館への開館を楽しみにしています。1点目に新図書館へのビジョンをお聞かせください。2点目に萬里図書館から新しい図書館へと移ることのメリットを、維持管理なども含め、現在の萬里図書館と比較してお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） 質問にお答えする前に、岡山議員におかれましては、これまで、川崎小学校のPTA会長、そして、町のPTAの連合会の役員として、学校教育に御尽力いただきましたことに対しまして、まずは、感謝を申し上げたいというふうに思っております。

それでは、御質問にお答えいたします。

まず、1点目の新図書館へのビジョンについての御質問です。

私は、新図書館は子供から大人まで、町民全てが集い、学び、交流することを基本理念として、文教の町日出にふさわしい、交流と学びの拠点にしたいと考えております。

また、幸いにも市街地の中心に立地するということとなりますので、その立地条件を生かし、誰もが利用しやすく、気軽に立ち寄れるコミュニティー機能や、あるいは憩いの場といった、多目的利用のできる施設にしたいと思っております。

合わせて、日出町の歴史や文化を発信する情報拠点として町外からも立ち寄っていただき、日

出城址周辺の町歩きや、商店街への誘客など、回遊性を生み出し、町のにぎわい、活性化に資する図書館づくりを関係課とも連携して目指していきたいと考えております。

2点目の、現行の萬里図書館から、新しい図書館に移るメリットとの御質問です。

本来の図書館のあるべき姿は、ゆったりとしたスペースで、本に触れ、親しむことのできる空間だというふうに考えております。しかし、現在の萬里図書館は、閲覧スペースはなく、駐車スペースも少なく、利用者の方々には大変御不便をおかけしてるところであります。

新図書館につきましては、広さが現在の約5倍になる予定でございます。したがって、閲覧スペースや、駐車スペースも相当程度に確保できることとなり、あるいは、インターネットなど、常機器の利用や、集会所設置など、多くのサービスが提供できるようになります。

また、図書普及拡大支援するボランティアの拠点の確保をしたいと思っております。

このように、利用者の利便性が格段と向上するというのが、メリットであります。多くの方々に満足していただける図書館になるというふうに思っております。

維持管理費に絡めてということですが、施設が広くなった分、あるいは、開館時間の延長などサービスが充実することの反面として人件費など維持管理費が現在より増加することも否めません。

これは、デメリットというのか、あるいは、必要やむを得ない状況ということも言えるかもしれませんが、初期投資も含め、できるだけ効率化、平準化に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） 確かに、計画案にありますように、本当に素晴らしい計画がなされていると思います。ですが、余りにも早い展開でことが進んでいるのではないのでしょうか、まだ、新図書館建設を知らない方がたくさんいます。5月19日にある団体の会議に参加させていただきましたが、本当に素晴らしい図書館をつくりたいという気持ちが私に伝わりました。

その後私も、5月27日に杵築市の図書館へ行ってきましたが、平成30年3月開館を目指し、5年計画で進めているとのことでした。現在の取り組みとして、近隣の図書館視察や、図書館を利用する団体の方との意見交換や、早い段階からのパブリックコメントの収集などを行っているようです。

そこで教育長にお聞きします。私は図書館というのは、日出町の文化的、教育的資源になるものだと思います。なぜ、短期間で建設するのか、1階の商業施設に合わせたのはわかりませんが、短期間で建設する必要性をお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 現在の萬里図書館、これ昭和59年に建築されまして、30年になります。これまで、非常に閲覧スペースもなく、狭いと、あるいは、古くなっているという利用者の方々からの声、特に図書館協議会というのがあるんですが、そういった方々から非常にこれまで問題視されてきております。

平成24年11月に、図書館協議会より閲覧スペースや、バリアフリー化など、利用者の利便性向上、あるいは老朽化に対応する形で、早急に新しい図書館を建設してほしいという旨の陳情書が町と、町議会に対して提出され、その年の12月議会において採択をされました。

このような経緯の中で、昨年、日出高校グラウンド跡地の商業施設利用が具体化してまいりました。その際に、この施設を有効活用すべきという意見も多くあり、町民の皆さんへの影響の大きさ、あるいは財政面等を勘案して、複合的利用による新図書館の建設ということになったわけがあります。

今、議員御指摘のように、新図書館建設が具体化してから大変短期間での建設計画、来年度オープンという目標で今作業を進めておりますが、それまでには図書館協議会委員を初め、読書の普及啓発活動に携わって来られたボランティア団体の皆さんは、新しい図書館づくりに備えて、他市町村の図書館を視察するなど、随時情報収集されているのも事実でございます。

したがって、短期間であっても、これまでに収集していただいた情報、あるいは、思い、アイデアを意見として出していただくことが必要だろうと思ひ、議員先ほどお話いただきました、各関係の意見交換会を行ってまいりました。その中でも、非常に参考になる意見、幅広の意見も含めて多くいただいております。これ以上もう出ないんじゃないかというくらい出していただいております。

その意味で、このいただいた意見を、財政的な制約の中でやっていけば、オープン当時から十分満足がいくかどうか別にしても、開館後においても、その辺のサービスの提供ですとか、そういったものを順次実施していけば、皆さんの満足いける図書館サービスができるのではないかなというふうに考えております。

その意味で、図書館は建設すれば目的達成というわけではございません。開館後においても、図書館に関心を持っていただき、運営のあり方を含め、両者の立場に立ったサービス提供を利用者や関係団体の御意見を取り合いながら、利便性向上を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） 新図書館は、リース物件の建設ですが、20年契約とお聞きしました。20年後再契約とのことですが、莫大な税金を投入して、建物は日出町のものではない、

20年後私たちの子供の世代に日出町の図書館は残せるのか、大げさかもしれませんが、この建設に関する内容を知らない町民の方が非常に多いように感じられます。

その後、再契約するのか、更地にしてもらうのか、買い取ることができるのか、計画時に大きな問題だったと思います。年間リース代も含め、現在の契約と、20年後どういう方向で進めるのか、お聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長、川野敏治君。

○財政課長（川野 敏治君） それでは、契約に関する御質問でございますので、財政課のほうからお答えさしていただきたいと思っております。

まず、3月末に高校跡地の利活用事業という形で、事業協定書を日出町と大和リースのほうで締結しております。この中で、契約の再契約に関する覚書という形のものをするようになっております。

20年のリース契約で、リース契約が切れる3年前から、再設定に関する覚書に基づいて、再協議を行うような形になっております。ただし、この協議に関しては、そのとき1回限りという形になっております。

また、協定の内容としましては、原則的に契約時にもとの状態の戻して、20年後変換するような形になっているのは、通常のリース契約と同じでございます。

それから、費用についてでございますが、最初の20年間、これは建設費等含めますリース契約の支払いの義務がございます。現在、毎年約6,200万円のリース代がかかるような形になっております。ただし、今度は土地の持ち主としての日出町が土地を貸すということで、土地の貸付料がございます。この土地の貸付料と建物に対する固定資産税、これも民間の建物となりますので、固定資産税が課税されるような形になります。

その部分の費用を差し引きいたしますと、約3,580万ほどの支出という形になります。また、20年後、もし、再設定の事業借地契約が再設定して、再契約するということになれば、建設費は当然その時点ではかからないような形になっておりますので、逆に土地の貸付料のほうが多くなって、約900万円ほどの収入があるような形になっております。

それから、契約の建物に関することでございますが、先ほど、契約満了時にはもとの状態に戻すという形で土地の部分についてはお答えいたしました。建物に関しましても、そのときに協議によりまして、無償譲渡、もしくはどうなるかというのは、またその時点で協議するような形になっている次第でございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） 先ほども申しましたが、日出町の文化的、教育的資源になるもの

だと思っております。20年後も見据えた計画をぜひ進めていただきたいと思いますと思っております。

続いて、運営についてお聞きします。

新図書館の運営ですが、今のまま町で運営するのか、指定管理にするのか、一部指定管理にするのかお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 新図書館の運営方式でございますが、御案内の指定管理制度というのは、利用料収入など一定の収益性がある公共施設の場合に、利用客の増加、あるいは、利用時間の延長など、サービスの向上に有効に機能するというふうに考えております。

図書館の場合には、図書館法によりまして、無料というふうになっております。その意味では、企業からした場合には収益性は経費削減からしか生み出されないということになってまいります。とりわけ、人件費削減によりまして、そのことがサービス低下を招くということも懸念されます。

以上のことから、当面、町の直営とし、合理的な範囲で機械化や、経費節減に努めることが適切ではないかと、そういう方向で検討をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） 当面は今のままで運営するとのことですが、やはり非常勤の方ばかりに頼るようになると思います。建設計画案では、職員の数も最終的には10名となっております。障がい者雇用なども視野に入れ、誰もが社会の一員として、仕事につき、その能力を發揮した日々を過ごすことのできる、明るく、笑顔あふれる図書館を目指してほしいと思います。

最近、指定管理の図書館が非常に多くなってきていますが、ここ日出町でも多くの意見が出てくると思います。指定管理のメリット、デメリットなどをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 今、運営についてどうするのかという質問とほぼ同様にはなりますが、一般的にという意味での理解で答えさせていただきます。

指定管理のメリットとしては、利用時間の延長など、施設運営面でのサービスの向上による利用者の利便性の向上、あるいは、人件費含めた管理運営経費の削減によりまして、施設所有者、町になりますが、負担の軽減が図られるということがメリットとして言えると思います。

デメリットでございます。先ほどのように、地域性の高い、低いによります。利用料収入のある施設、公の施設なのか、そうでないのかによって違いますが、一般的に言いますと、経費節減のためにどうしても企業努力上コストカット等で利益を出そうということになってまいります。

その意味では、弾力的運営ができなくなる、あるいは、場当たりの対応になってしまうということが懸念され、集客力の減少、収益の減少という可能性があるというふうに考えております。

さらには、状況によっては、運営における責任の所在、これをしっかりしておけばいいかと思うんですが、その辺が不明確になるということも言われているようでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 1番。

○議員（1番 岡山 栄蔵君） そうですね、デメリットはたくさんあると思います。確かに指定管理ですと、読み聞かせの会や、学校図書との連携が非常に薄くなると思います。専門職としての司書の育成ができなくなったり、図書館本来の業務が最優先されないなど、民間業者の最も重要な業務は利潤の追求になると思います。それぞれのメリット、デメリットを十分に理解、調査して、今後検討してもらいたいと思います。

開館時間や、閉館時間、休館日などは、1階のトキハに合わせたほうがよいのではないのでしょうか。

今、現状の年間利用の統計を見る限り、子供たちの利用は、夏休みに集中しているようです。担当課の方にお尋ねします。今よりもさらに多くの方に利用してもらうために、ほかにはないサービス等ありましたらお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長、野上悟君。

○生涯学習課長（野上 悟君） 今、議員の質問ですが、他にはないサービスはないかとの御質問でございます。

現在の万里図書館では不十分である部分の説明を先ほど教育長からも申し上げておりますが、その方向でお答えしたいと思います。

1点目には、ゆっくりと選書ができ、読書にふけることができるスペースが最大の魅力ではないかと思っております。

2点目が、閲覧や持ち込み、現在不十分でありますので、そのような学習のできるコーナーも設置していきたいと。

3点目が、歴史や文化を発信するための郷土資料のコーナー、並びに展示コーナーも考えていきたいと。

あと、子供の読書活動を支援するために、一般と、一般の書架と分離した、児童用の書架コーナー、それと読み聞かせの部屋とか、授乳室、おむつのかえる部屋とか、子供のトイレ等も考えていきたいと。

それと、特に、子供や高齢者、並びに障がい者にも配慮した低い書架を設置し、選書しやすい、選びやすい、そのような配置も考えていきたいと思っております。

ですから、なかなか他にはないと難しい問題ですが、皆様のいろんな御意見の中から、今後また協議していきたいと。それと、また、開館後も余裕のあるこのスペースを十分に生かしながら、

町民皆さんの思いが実現できる図書館を目指していきたいと考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 1 番。

○議員（1 番 岡山 栄蔵君） 以前いただいた計画案からですが、図書館の規模とスペース構成などはかえられないとは思いますが、施設の内容については、まだまだ検討が必要だと思います。

来年3月に商業施設がオープン予定ですが、図書館は4月に開館予定になっています。それまでに、図書館協議会、図書館利用ネットワーク会議、意見交換会が2回ずつしかないというのは、余りにも少ないような気がします。

先日の全員協議会で、学校関係、保護者への周知をお願いしましたが、迅速な対応をしていただきました。自治会や、企業にも同じ対応をしてはどうかと思います。

その計画案にはないですが、ビジネス支援コーナーなどを設置し、ビジネス分野の図書資料などの収集のほか、起業や資格、キャリアアップなどの特定のテーマに沿ったコーナーを設け、無線ランサービスを提供するなど、ビジネスマンの利便性に配慮するとともに、産業支援機関や商工会などと連携を図り、さまざまなビジネス支援を取り入れるのもいいと思います。

開館が1年も2年もおくれるわけにはいかないでしょうが、パブリックコメントの収集、意見交換会も含め、半年ぐらいは先にしないと計画案にあります基本理念、運営方針はただのうたい文句になってしまうと思います。

最後の質問になりますが、運営の内容について、さらに町民の皆様や、外部団体の方と十分に協議ができるのかをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育長。

○教育長（西野 智行君） 運営内容についての町民の皆さん、あるいは関係団体の方との協議ということでございます。

これまで、1年後にという目標を、オープンがですね。掲げながらやってまいりましたが、いろんな方からの情報、あるいは、他の地域の先進地の図書館サーチ、こういったところも行ってまいりました。なかなか、図書館、言うのは簡単なんですけど、なかなかどういう形でつるとか、そういった今度段階になりますと、非常に難しいなというふうに、今、私としては感じております。

その意味では、行政だけでできないんだろうなという気もいたしております。ごらんのように図書館を建設するまでにおいても、まだ若干時間的な余裕ございますので、微調整も含めてレイアウトの分についてはこれから今までいただきました意見を具体的に、形にしていく作業、この段階においても町民の皆さんとりわけ図書館活動これまで積極的に進められてきた皆さんとの意見も参考にさしていただきながら、それを進めてまいりたいと思っております。

運営内容でございますが、図書館が建設して終わりという、目的達成ということではありません。先ほどもお話も、御答弁さしていただきましたが、運営のやり方を含め、利用者の立場に立ったサービス、どういった形で提供できるのかということが重要であります。

図書選定、あるいは本棚等の備品整理等を含めて、閲覧スペースをどのように確保、あるいは配置していくかなどいろんなまだ問題が残されております。

今後とも町民の皆さんや、関係団体の方と意見交換することを通じて、随時協議していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 岡山議員の御質問の中で、図書館部分のみに今なっておりますので、念のために私から若干、現代的なお話もさせていただこうと思います。

大体、1階2階部分を含めて8千平方メートルが今のところ公表された数字、今後変わる予定がありますが、8千程度になっています。

下が4,500ぐらいと、1階の商業施設であります。上の部分が3,500、あるいはまた4千弱と、こういう感じであります。したがって、先ほど、教育委員会からの御答弁の中にありましたが、五、六倍という、5倍ぐらいということですから、2,500ぐらいから3千ぐらいあります。

あとの500部分というのは、公共施設スペースなんであります。したがって多くの町民の皆さんが個々に交いして交流できるというか、あるいはそこで休息したり、雑談できたりする、そういうコーナーも組んでおるわけ、特にそういう部分を重要に考えておるということでもあります。

そのことについて、ぜひ一緒に御理解いただきたい。そういうような、商業施設と一体的に建設をするという考え方からしますと、上の少なくとも2階部分の外郭はほとんど完了して、一方はもう商業施設として開館、開業してまいります。

そんなときまだ、よそから見たらどんどん工事ということにはならないわけでありまして。そういうことからすると、外観はほとんど私は1階部分ができたときはできてると、ただ、内部の問題については、今、配置の問題がございます。そういうことを考えると、そして特に直営化、あるいは委託化というようなお話がありました、これも今の図書館をこのまま移しています。蔵書の、ますますたくさん、今5万5千冊いいますが、いずれ10万、あるいは15万冊を目指してまいります。

そのときに、図書館については、そんな背番号とかタグがついておりますが、そういうことの一連の整備等が出てまいります。ですから、そういうようなする間は直営をせざるを得ない、こういうことでもあります。いずれいつかの段階については、もちろん直営もありますし、委託の方

向もあると、こういうことをぜひ御理解をいただきたいと思います。

そのような全体の中で、できるだけ今議員が御質問、あるいは問い合わせがございましたような点については、内部で十分検討さしていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 1 番。

○議員（1 番 岡山 栄蔵君） 先ほど教育長のほうに十分意見交換を行うという回答を確かに聞きました。

私の想像する図書館は、読書により言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人生をより深く生きるための力を身につけていく上で欠かすことのできないものだと思います。

今後また、学校、家庭、地域を通じた子供たちの読書活動の推進も含め、この問題は図書館を利用する者としてまた、利用する子供たちの保護者として、今後も向き合っていこうと思っております。

日出町の皆様とともに、成長のできる図書館建設を願い、私の一般質問を終わらせていただきます。（拍手）

.....

○議長（熊谷 健作君） 1 3 番、佐藤隆信君。1 3 番。

○議員（1 3 番 佐藤 隆信君） 日本共産党、佐藤隆信です。質問を行います。

はじめに、日本テキサス日出工場跡地の土壤汚染対策について質問を行います。

全国の工場跡地から有害物質による土壤汚染が多く発見されています。特に、I Cの工業跡地、メッキ工場の跡地に多く発生をしています。

日出町川崎の日本テキサス工場跡地からも、有害物質が土壌から検出されたと、全協で報告をされました。私は、この全協で報告を受けてから、テキサスとの日出町に譲渡する取引契約は、土壤汚染の問題が解決した後にと町長に言ったと思います。

先般の全員協議会では、その解決がなされていないのに、テキサスが責任を持って行うということで契約されたそうです。

土壤汚染の問題はテキサスが責任を持って解決するとの約束をした文書を入れているとの聞きましたが、私たち議会には有害物質の土壤汚染の状況や、契約書などは何も見せてもらっていません。

内容を詳しく、私たちや町民に報告してもらいたいと思います。

そこで、聞きたいのです。全協では、鉛及びフッ素の土壤汚染、混入量が基準値を超えていると報告がありました。その基準値はどれくらい超えているのか、また、テキサスは全体で30近

くの薬を使っていたと言われていています。単に基準値を超えた土壤汚染にされた固有物は行っていないのかどうか、その点についてもぜひ報告してもらいたいと思います。

再質問は、質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 佐藤隆信議員の御質問に御答えします。

土壤汚染対策法に基づきまして、土壤汚染の基準に土壤含有量基準と、土壤溶出量基準という2つがございます。その中で、鉛、フッ素の土壤含有量基準につきましては、鉛が1キログラム当たり150ミリグラム、フッ素が1キログラム当たり4千ミリグラムとなっております。

今回の調査結果によりますと、鉛につきましては、最小値が1キログラム当たり1ミリグラム、最大値が1キログラム当たり19ミリグラム、フッ素につきましては、最小値は不検出、最大値は1キログラム当たり1,100ミリグラムとなっております。汚染基準を超えた箇所はございませんでした。

また、土壤汚染溶出基準におきまして、さきの全協でも報告しましたが、鉛が3カ所、フッ素が15カ所基準をオーバーしたものがございました。溶出量基準でございますが、フッ素が1リットル当たり0.8ミリグラム、鉛が1リットル当たり0.01ミリグラムということで、どのくらいオーバーしたかということでございますが、フッ素につきましては、0.8ミリグラムに対して、0.9ミリグラムから、3.1ミリグラムというような結果になっています。

それから、鉛につきましては、0.01ミリグラムに対しまして、0.012から0.03というような数字が上がってきております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 私が金曜日に保健所に行って、保健所のほうでこういうものが出たときはどういう対策をすればいいのかというような調査も行きました。そのときに、保健所にもテキサスのほうからだと思んですが、方向があったと、で、それを見せてくれって言ったら、いや町のほうに行ってるんで、町のほうに見せてもらってくださいと言うんで、保健所は町の許可を得ないとだめっちゃうことで、町の担当課に行って見せてもらいました。

そのコピーをくださいっちゃうんですけど、コピーはもらえませんでした。

そのときに見たのは、基準値以上の出たのは、鉛とフッ素だけじゃなくて、他にあったと思います。それはどれですか、言ってください。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 基準値をオーバーしたのは、鉛とフッ素のみでございます。土壤ガスの調査の段階で、四塩化炭素というのが出ましたが、先ほど言いました溶出量基準に照ら

し合いました調査を再度行いました結果、その四塩化炭素については、特に基準をオーバーしたことはないということでございましたので、フッ素と鉛がオーバーしてるということでございます。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） あなたが言っているのは、土壌混入量の基準だけを言ってるんじゃないですか、先ほども言った土壌溶出量基準、または地下水溶出量基準は0.01が鉛では0.02から0.03、フッ素では、0.9から3.1と、そういうところで他のものには多分超えているもんがあると思います。

私が見た中、だからそのコピーをくださいちゅうのに、あなたはくれなかったと、ぜひそれを議会にコピーを見せて悪いものでないんだから、ぜひコピーを見せてもらいたいというふうに思います。

次に、土壌汚染されている面積、また深さはどれぐらいなのか、答弁してもらいたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 土壌汚染されている面積でございますが、先ほど言いました溶出量基準を超えた箇所が、全調査箇所364カ所中、鉛が3カ所、フッ素が15カ所ということで、10メートル四方区画ごとのサンプリング調査ということでありますので、単純にその面積を合計すると100平米掛け18カ所ということで、1,800平方メートルというふうになります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 1,800、本来3,000平米以上汚染されると大問題ですが、1,800ということなんでしょうが、全体の面積、要はテキサス全体の面積にすれば大量な面積になるというに思います。

次に、テキサスとの土壌汚染対策の約束した文書があるとのことでありましたが、私たちにを見せてもらえません。その文書をぜひ出してもらいたい。そして、その文書の中にはどういうことが書かれているのか、そのことを知りたいんで、文書を出してもらいたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） その文書につきましてでございますが、ことし5月1日に、環境についての合意書ということで、町と、日本テキサスと文書を交わしております。その文書を公開することについては、また検討させていただきたいと思いますが、本日は主な内容について御説明をさせていただきます。

まず、土壌汚染対策法に基づきまして、大分県に調査報告書を提出し、その指導に従い誠実に対策を実施するというございます。

それから、大分県からの指導の有無に関わらず、一部の汚染箇所については、土壌の入れかえ、修復を行うということになっております。

それから、来年の4月までの間に、新たに発見された土壌汚染に関する事等につきましては、基本的に日本テキサスさんほうで責任を持って対処するというような文書になっております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） その文書を見せられないっちゅうんであればしょうがない。ぜひ私は見せてもらいたいと思います。

なぜなら、今言ったように一部土壌の入れかえを行うということを言われました。確かに土壌汚染をされたら、土壌の入れかえは必要です。ただ、どれくらいの土壌の入れかえをするのか、その土壌をどこに持って行くのか、また、海も近い、水質汚染はどうするのかという問題もあるんです。だから、その文書の内容にそこまで踏み込んだ文書なのかどうかをぜひ見せてもらいたいというふうに思います。

次に、汚染された、先ほど言った土壌の撤去方法などについては、書かれているのかどうか。

また、テキサス周辺にはどれぐらいなボーリングがされているのか、調査をしましたか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 汚染された土壌の除去等の措置についてですが、特にその環境合意書の中で細かくうたっているわけではございません。基本的には、大分県の指導に基づきまして、その辺の対応がなされるのではないかなというふうに思っております。

また、先ほど申し上げたように、大分県の指導有無に関わらず、一部の汚染箇所については除去するというふうになっております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） ボーリングについて、何も今答弁をしなかった。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 失礼しました。

ボーリング箇所等については、今のところ詳しい状況把握はできておりません。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） そこが問題なんです。土壤汚染というのは、要するに地下水に、地下に入るわけですよ。そしたら、どこに行くかっちゃうと、あの下の小深江の港の海、並びに1キロ以内に野菜やらによるボーリングが掘られています。私は全部調査しました。

8本掘られて、1つは簡易水道もあります。そこまで、私はその契約書の中に、水の検査をどれくらいするということまで入っているのかどうなのか。八代の産廃場は、もう産廃を封鎖して10年以上たっています。それでも、3キロ以内の地域に、当初は30本のボーリング、それをずうっと検査をしました、毎年毎年。

ことし、やっと県のほうが来て、少し数を減らしてくださいと、出なかったんで減らしてくださいと言って数を減らしました。それでもまだ、水質調査をやっているんです。要するに土壤汚染というのは、単純なものではなく、特にテキサスは約40年間、あそこで事業をやっています。そうすると、かなり私は地下に入っていると思います。

その問題を、ただ、単純にテキサスとの間で、お宅、今、土壤調査の土壤の問題もそんなに大したことないって言ったけど、これは指導要綱の中に入っています。土壤持ち出しについても、きちっとどういう措置をするのかということがきちっと問われています。

そういうことも含めたテキサスに対しての文書、責任を問っているのかどうか。今言ったように、担当課さえ、どれくらいのボーリングが掘られているのか、そういう調査もなされていないというのは、余りにも無責任ではないかというふうに私は思います。

その点でテキサスが、これをそういうところまでどれくらいの年月をかけて、水質調査などをするのか、その辺について町として文書の中に盛り込むことができるのかどうか、答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 近隣のボーリング等の把握はいたしておりませんが、今回テキサスが土壤汚染調査を行う段階で、昨年テキサスの敷地内で地下水の観測用井戸ということで4カ所ほど掘っております。その4カ所の井戸の調査を行った結果が出ております。

その調査結果によりますと、そういうフッ素とか鉛とか、そういう物質はその井戸の調査の中では全く出てないというような状況が含まれております。

それから、今後の問題でございませけれども、基本的には県のほうに調査報告書を5月27日に提出をいたしておりますので、県のほうの指導に基づいてT I社のほうが責任をもって対応するというのでございませぬので、その辺を町としましても、その指導内容、それから、指導内容に基づいて会社が適切に対応するかどうかということを見守っていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 県に頼んじょるけん、県がしちくるんじゃからいいっち。そういうもんじゃ、私はないと思うんです。日出町があ土地を譲渡したわけなんです。もし問題が起きたらその辺のテキサスとの間をきちっとしてないと、日出町が今後相当な被害に遭うわけなんですよ。

もし、1つのボーリング場の中から、鉛にやらが出たらそれこそ大変ですよ。その賠償誰がするんかと。じゃあ、日出町がそれだけの賠償できるのかという状況が起きるわけです。私、この前保健所に行ったときも、保健所の方々もテキサスの間の中で日出町はきちっとしたことをしたほうがいいですよと言われました。そりゃ、当然でしょう、担当とするならば。

私も、産廃問題で相当扱ってきました。県ともけんかもしてきました。でも、そのときに大事なのは、その地域や町や、その汚染されたところから、どう地域の人の、住民の命と生活を守るのかということなんです。例えば、土壤汚染対策法、土壤汚染対策法の目的は、土壤汚染による健康被害と、これを防止することです。この目的を達すために、同法では土壤汚染を見つけ、調査のきっかけ及び手法を公に、これを地域に知らせ、健康被害が生じないよう管理をしていく、その仕組みを定めなければならないというようになっています。そういうことが、きちっとテキサスとの間で日出町ができているのかどうか、県に任しているから、県がやるんだから日出町はいいですよっちいうことにはならないわけです。

日出町がテキサスとの間で契約するんだから、テキサスにどういうところまで責任を持ってもらうと、いうことをやるかどうかなんです。それについて、余りにも町が鈍いんじゃないかというふうに私は思います。

だから、私はテキサスから譲渡を受けるときに、その問題が起きたというから、その辺をきちっとしてそれから日出町は譲渡してもらったらいんじゃないかというふうに指摘しました。でも、譲渡を受けたということなんで、じゃあ譲渡を受けた以上、テキサスにどれだけの土壤汚染に対する責任を負わしたのか、県が、県の方針でするんだからよいということじゃないと思うんです。

町長、その辺についてはどう思いますか。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 既に、クーリングルームを中心に薬品を扱ってるというのは御案内のとおりであります。その周辺において、既に4本掘ったと、それからさっき箇所についても申しましたが、フッ素と鉛が出たと、その問題については、県が責任を持って、これは監督機関であります。

今、保健所が、町が行ってるというんだったら、私は保健所は町にすべきです。こうこうこう

で、もう少しこういう具体的に取り決めしなさいとすべき、指導機関としてすべきだと思います。

私は、そういう意味から1回照会をさせていただこうと思いますが、私のほうは、確かに周辺に農家の方々が300メートルぐらいあるんでしょうか、ボーリングをされた実態があります。そういうことであれば、もう5年も10年も前にいうことであろうと思います。

今するというのは、確かにそういう面もありますので、十分配慮してまいらなきゃならんが、考えられる線については、十分検討して、問題なきように全体的に県の了解が得られるようにちゃんと処理しますと、一札をいただいているわけでありますから、議員の言われるような面もあるとすればもうさらに確認をして、県のほうに、もう少し厳格な調査をするように私のほうからお願いしていかないといかんと思います。

権限と責任を持つてるところが、権限と責任において処理するわけでありますから、その結果については、私は一応聞くというか、さらに、特に課題、問題が周辺から出てくれば、それはまた他の対応が必要であると思います。今のところ、関連した4カ所について、ボーリングして、その影響がなかったと、こういうことであります。

その辺についてどういうふうにかえるかっていうのは、若干見解の相違があるかもしれませんが、議員が周辺のことを言っておられるわけでありますが、フッ素の性格、あるいは鉛の性格からすると、やっぱり今水溶性、水に溶けると言いますか、その辺のところについてどの程度あるか、検討もいたしますが、一応問題ないんじゃないかという想定されてますから、県の5月の検査がやっておられますから、その結果は待ちたいと思います。

もしそれで、よくないということであれば、さらに県からテキサスに対していろんな指導、あるいは助言がなされるだろうと、そういうふうに思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 議長にもお願いしたいんです。

先ほども言った、保健所に出されたテキサスからの有害物質の調査した資料をぜひ議会に出してもらいたいということと、テキサスと契約した文書、それをぜひ議会に出してもらいたい。そのことを議長にお願いをします。

それと、先ほども言った鉛の有害物質、これくらいにはどうもないって言いましたが、鉛は、慢性、毒性、赤血球中に出る場合には、0.1から0.2グラム付近から見られる、鉛の高濃度の中毒症状、貧血、消化管理、神経、血液の鉛の中濃度は、0.4から0.5ミリを超えて長期にそれが体に入ると悪いというふうになっています。

だから、私が心配するのは、長期的にボーリングや海水の調査をしないと、悪いわけです。いつ出るかわからない。だから、真那井の産廃場は、10年かけても、出なくても調査をしてるわ

けです。地下水からいつ出るかわからないのに。

だから、土壤汚染というものは、しっかり一定の長期にかけて調査をすると、そういうことをテキサスに責任を持たせるといふようなことを無償で譲渡してくれるんだから、そんなにいろいろ言うことはないかと、いうことじゃないです。

結局、無償でもらってもし出たら高いものにつくわけですから、その辺の問題をきちっとぜひ担当課、町長やってもらいたいというふうに思います。

その辺について答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） その前に、今、資料の提出のお願いがありました。担当課長、別に隠すほどのものでもないと思いますので、文書での提出を後日お願いしたいと思います。商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 今後の対応についてでございますけど、基本的にも、県のほうの指導を待って、それが十分でないということであれば、水質調査等もT Iに呼びかけるなり、町でやるなり、いろんなこと検討を今後してまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 公害問題というのは、皆さん御承知のように、一度起きたらなかなか片づくことはできない、それは日本の全国の有名な水銀問題についても、長野県のイタイイタイ病問題についてもそういうことです。

だから、嚴重に、本当に最新の注意を払って、日出町の住民が健康被害が起こらないような、そういう対策をぜひ私は立ててもらいたいというふうに思います。

次に日出町の産業振興についてお聞きします。

平成26年の日出町の産業振興予算は、農林水産予算が約7千万円、水産振興は3千万円、商工振興はわずか676万円、合わせて1億円ちょっとです。今、私は産業振興は大事だと思います。一貫して議会でも産業振興の問題を取り上げてきました。産業振興にわずか1億円そこそこです、今度の予算書見ますと。

これで本当に産業振興ができるのかというふうに私は思います。

反面、市街地整備事業などは6億円を超えています。産業振興のこの少ない予算の中で、具体的にどういう産業振興を行っていくのか聞きたいと思います。

町長は常日頃、日出町3万人にしたい、人口3万人にしたいと言っています。私は、日出町に働く場所がなければ観光では人口はふえないと思います。現在日出町で、企業誘致の計画はあるのでしょうか。また、現在ある町の中の、中小企業対策はどういう対策を立ててるかまず答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 企業誘致及び、現在の町の中小企業対策ということで御説明いたします。

企業誘致につきましては、雇用対策、定住人口の増加、税収の増加を図るため、積極的に取り組んでいかなければならないというふうに考えております。現在の取り組みは、平成20年度に企業立地促進条例を制定しまして、独自の優遇施策を設けるとともに、半島振興法などの優遇制度を活用しまして、誘致に努めているところでございます。

平成20年以降、株式会社松本商店、コープ大分、株式会社木村コーポレーション、ビジネスホテルや、株式会社由布合成化学、それからホンダ太陽の増設と製造業やサービス業など、10社以上の企業が立地をいたしております。

また、ことしの4月より、企業誘致担当の非常勤職員を配置しまして、体制の強化を図っているところであります。さらに、県との連携を密にしまして、企業訪問との回数をふやし、情報の収集や要望の把握に努め、企業誘致に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それから、中小企業対策につきましてはですが、旧商店街の空洞化が進展するなど、大変厳しい状況が続いておりますが、商工会と連携を図りながら、商工業の振興を図っていききたいというふうに考えております。

具体的には、昨年度も実施しましたが、本年度も今議会の補正予算に掲示をしていただいております、商工会による、商品券の発行事業、それから、今回初めての取り組みでございしますが、旧商店街に新たに出店を考えている事業者に対しまして、改造費や家賃を助成する空き店舗対策事業、さらに有利な融資制度でありますセーフティーネットに関する町としての認定事務などを実施をしてまいりたいというふうに思っております。

一方、企業誘致の取り組みでも述べましたが、企業訪問を通じ、企業の情報や、要望を聞くことも重要ではないかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 企業誘致の会社については、10社ぐらいをしているというふうにありました。一定の成果があったと思います。

ただ、中小企業対策は、最近日出町に来た、町の中に入った人には、入れば一定の補助金も出すというふうなことをつくっているというように思います。ただ、私は中小企業対策については、担当課にもよく話しているんですが、やはり一度アンケート調査などをとって、日出町の中小企業や商店街が町に何を望んでるのか、どうしてもらいたいのかということの、やはりその人たちの意見をよく聞かないと、具体的な計画はできないと思います。それをやったことがあるのか。

また、今後やろうとしているのか。それに基づいての対策をとったほうがいいんじゃないかと思うんで、その辺のことをやったことがあるのか、今後やろうとしてるのか、その辺のどこを聞きたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 中小企業者に対するアンケート調査については、最近ではしたという記憶がございません。今後どうするかということでございますが、先ほどもちょっと述べましたが、企業訪問、中小企業訪問等を行うことによって、事業者の意見等を吸い上げるという方法もありますし、アンケート調査という方法もあると思いますので、その辺は今後検討してまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 私がなぜそういうことを言うかと、日出町はテキサスが撤退をして、大企業というのは日出町には、もう全くないと言っていいでしょう。そうなってくると、今ある日出町の中小企業、元気でこれから先日出町でもっと企業活動を旺盛にすると、そしてここで生産を上げ、雇用をふやすということになれば、地場企業であれば法人税であろうと、住民税であろうとほとんどその町に入ります。

だから、一定の日出町が予算をつぎ込んで、地場企業を強化発展させることによって、町も私は潤うというふうに思うんで、その辺についてもっと力を入れて、地場産業、地場企業に対して地場の中小商店に対しての予算措置もし、わずか600万か、700万ではなくて、もっと予算措置もきちっとつけて、対策を練ってもらいたいというふうに思います。

次に私は、これまで25年から26年にかけて、3回も農業漁業振興について質問してまいりました。平成25年の12月議会では、町長に8項目の要求を出し、農業問題では、漁業問題では、公社をつくってどういうことをしたらいいかと、こういうことをしたらいいんだという提案もしましたが、町長は、そういう公社をつくってもうまくいかないと、日出町の職員は1億円以上の人件費を使っているんで、職員で行うと。また、短期的でいろいろな観点で、短期、長期的観点で考えていく、このように答弁もいたしました。

では、農林漁業の日出町の年間生産高、計画はできていますか。現在は多分40億円切っています。または、5年ぐらいの中期生産計画などはつくっていますか、答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長、岡野修二君。

○農林水産課長（岡野 修二君） 佐藤隆信議員の質問にお答えいたします。

5カ年ぐらいの中期生産計画等についてはですけども、まず現在の年間生産高でございますけれども、平成18年以降、国の公表というのはないわけでございますけど、平成18年当時は、

農業が41億8千万、漁業が7億5千万、林業が2千万ということで、合計で約50億円という生産高でございました。

その後、現在公表はございませんが、その後の状況を見てみますと、採卵鶏、あるいは直売部門というのが日出町ではかなり伸びていると、そのように考えられます。

それに対しまして、米、あるいはハウスミカン等を中心にしました果樹、そして酪農というのがかなり減っていると、そういう状況でございます。細かな算定ができていないわけではございませんけれど、その辺で、現在の価格等、面積等から推定いたしますと、農業等で約35億円、漁業、林業等で約5億円ということで、全体では40億円程度、当時に比べますと10億円程度落ちてるんじゃないかとそのように推測をしているところでございます。

それから、担い手の今の状況でございますけれど、中核的担い手の認定農業者、これが80経営体でございます。それから、農業後継者で組織いたします、営農同志会というのがございますが、現在会員が13名でございます。

それから、新規就農者の状況でございますけれど、これは農の雇用事業等も含めてでありますけれど、平成21年に2名の新規就農者、22年が6名、23年が2名、それから24年が9名、25年が2名という、そういう状況になっておるところでございます。

今後、認定農業者を中心にいたしまして、今後の日出町をしょって立とうという計画を持っている方でございますので、その辺の規模拡大、あるいは経営の合理化の目標に対しまして支援をしていきたいと考えております。

中期生産計画ということで具体的な数字という形では今まだできておりませんが、生産高でなくて、これからやはり所得というものに注目していくべきではないかと思っております。

現在、いろんな燃油の高騰でありましたり、資材、あるいは飼料等かなり高騰しておりますので、売り上げでなくて経費のほうがかなり負担が大きいというところで、やはり所得をどうやって上げていくか、その辺がこれからの課題だと考えております。

これからは、そういう販売先でありますとか、販売方法その辺も含めた戦略を模索していきながら、品目ごとに細かな計画を今後立てていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 課長、そのとおりなんです。要するに計画を品目ごとも立てると、ただ、そのときに私は大事なのは中期、長期的な計画を立てないと2年先にはここまでいこう、3年先にはここまでいこう、それができないのはなぜなのかと、常に追求をしてやるにはどうしたらいいのかということになると思うんです。

だから、物事をするにはやはり計画をきちっとつくって、その計画に達成するにはどうしたら

いいのか、しなかった場合にはなぜなのかという反省と、がないとなかなかその計画にはいかないというふうに思います。

だから、大分県は今、1年間に担い手を年間200人、5年間で1千人というふうに決めています。ことしは199くらいにいったというふうに言われていますが、そういう計画を町も自分で私はずひ持つべきだと。そうしないと、町長張り切って職員に1億円もお金を払うちよるんじやけんって、私にはひで一こと言ったのじゃないかと、そういうことを言ったんですが、本当に、私は今の職員は大変だと思います。なぜ大変かっちゅうと、水田の対策がこんなところ変わって、それを消化するのに今職員は大変ですよ。実際言うて。

地域に入って農家の人に、これをやってくれ、あれをやってくれちゅうんだけど、米の値段は安いし、高齢化しちよってなかなか農家の人はそれを受けてくれないと、多分悩んでいます、いると思うんですよ。

それでも、国はこんなにかわるんだからやらなければならないという状況です。私に言わせれば、今国の方針に従えば、農家はつぶされるというふうに思うんですけど、それでも行政はやらなければならないということで大変だと思います。

だから、ただ、それを聞くだけじゃなくて、みずからの町で、みずからの農林水産をどういうふうにするのかという具体的な計画をつくり、年次計画をつくり、中長期計画をつくって、それに向けて私は実行をやってもらい。そのときに、職員だけでは人が足りないというんであったら、それなりの専門家を入れて、具体的にやってもらいたい。

特に、私は聞きたいのです。今後の水田対策は、どういうふうに考えているのか、昨夜私のところで今度町のほうがイノシシの囲い込みの対策をやれば今度日出町で1つの地域くらいは予算が出るようにあるというんで、八代をやったらどうかと、それは、約もう5年くらい前に、中山間でやったらどうかっちいうんで、皆さん賛成をしました。地元負担5%で、約100万、担当約1万出してやるというふうにしたんですが、それから5年間、高齢化しました。

そして、今つくっているのは、水田の持ち主は30戸ほどあるんですが、実際つくっているのは12軒ぐらいです。その人たちは、何とかやろうと言ったんですけど、自分の田んぼでないのに100%出すのは大変だから、地主が半分ぐらい出してくれないだろうかというんで、きのうは決まりませんでした。来週1週間かけて地主と相談をして、地主が出すというんだったらやるというふうになりました。

なぜそこまで今なってるかと言うと、米の値段が安い、高齢化している、だが八代のようにこれだけ圃場整備をして、莫大な金をかけて圃場整備をした水田を荒らしているのかという問題が、農協の職員の若い2人から出ました。

だから、何とかやりたいというんですが、高齢化の中で、米の安い中で政府はこういうふう

TPPをいつやるかわからない。そういう中で、なかなかみんな踏み切れない、それが状況です。そういう状況の中で、日出町の水田をどう守るのかということについては今後大変だと思います。

そういう問題を農林課や、政策推進課、この辺についてどういうふうな計画があるのか、どうしようとしてるのかを聞きたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 水田対策についての質問でございますけれど、国のほうは、ことし4つの改革といたしまして、農地中間管理機構の創設、あるいは、経営所得安定化施策の見直し、それから水田フル活用、日本型直接支払制度の創設ということで、4つの改革を提案いたしました。

日出町といたしましては、平成24年度から、人農地プランという、これも国の政策ではございますが、それに取り組んでいるところでございます。地域ごとに、5年後、10年後、それぞれの地域の集落の中で農地を誰が担っていくのか、集落全体でやるのか、個人の中でやりたいという方に任せるのかというところで、農地をどうやって集積させていくか、あるいはそういう担い手がいないところにつきましては、人に貸すことができるのか、その辺も含めまして人農地プランという計画をつくるような指導をしてるところであります。

現在も圃場整備を行っている地域でありますとか、中山間地域と直接支払制度等、もう国の制度に乗っているところ、そういうところを中心に今推進をしてるところでございます。現在、今7地区でプランができておりますし、ことし11地区でつくりたいという目標を持っております。やはり、まずは集落の中で十分な話し合いをしながら、その集落の中でのビジョンというのをつくっていただきたいと、その中でうちのほうも一緒になって話し合いをしながら、それにその実現に向けての取り組みを行っていききたいと、そのように思っているところでございますので、その後プランができましたらどういう作物を導入するとか、そういう細かい作業になってきますが、まずは、各地域の中で十分な話し合いをしていただくような、そういう段取りをとってまいりたいと思っているところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 佐藤議員の御質問の中で、若干、私は誤解があるようにありますので、釈明をさせていただきたいと。

町の職員が確かに1億以上の金がかかっているんです、職員の人件費。私がこのするって言ってんじゃない。新しい時代が来てるんで発想をかえて、議員が言われるとおりです、そのとおりに向くように、課題をとらないで、今までどおりのやり方ではなくてやろうと、こう言ってるわけでありまして。

そういう意味からすると、職員だけでやるって言ってるわけじゃない、今課長が言いたいたいような観点があります。そういうこと、従来の踏襲ではなくて、しっかり新しい時代を見据えて、産業振興やっぺいこうと、こういうことでもあります。

議員から私のところに公社をつくったらということでもあります。この点については、私は余り積極的ではありません。なぜかと言いますと、今、日出町は、1戸当たり4反とか非常に耕作に狭い、今、八代のほうは圃場整備やっぺますし、軒の井とか、あちこちやっぺるところがありますが、大多数は圃場整備ができておりません。そういうようなことの中で、あえてまた高齢化が進んでおるわけですから、そういう時代でありますから、公社をつくってやればできそうな感じということには、私はならないんではないかと、そういう意味から議員が言われたとおりです。中期、長期的な計画、目標を掲げて、しっかり産業振興やっぺいこうと、その点については私は全く異論はございませぬ。

ただ、職員だけでやっぺるからほかんことせんのだと、こういう誤解では、私は若干私の理解と違ふということをおし上げて、今、言われるような方向については、何ら異論はございませぬので、今後とも担当課を上げて頑張っていきたいと思ひます。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 私は、一番、水田の問題については、今政府が出している農地プラン、これが一番問題だと思ふんです。今、政府は、農協改革、農業委員改革をやろうとします。つまり、農業委員会ももう必要ないと、農協も金融と営農を切り離すと、そして最後には日本の大企業が農地をどんなにでもできると、今の農家はもう全部撤退をしてもらいたいというのが、今度のTPPの方針です。

次から次へと、そういう攻撃がかけられています。でも、日本から、農地から農民を追い出して、本当に日本の農業はできるのかと私は思ひます。

それだったら、この町で今ある日出町の農家の方がどうできるのか、それと同時に、担い手をどうつくっていくのか、前回は出しましたが、先ほど課長も言ひましたが、所得年間、担い手には400万以上の所得を上げないと、担い手はできないと。じゃあ、そういう農業をどうつくっていくのか、またお年寄りがお年寄りにできるなりの農業をどうしていくの、それぞれの立場に立った農業政策をきちっと私はやはり具体的につくらないと、今の日出町の農業は戻っていけないというふうにお思ひます。

ぜひその辺をもっと具体的に立ててもらいたいというふうにお思ひます。ふれあいも、今、旬の館も、今度の決算書を見ますと、結構売れているようにあります。それは、小さな人たちが年金をもらいながら、安全な野菜をつくって、ふれあいに出しているというふうにお思ひます。それは

それなりに意義があると思います。ただ、きょう私のところに、私のハウスで、福岡から28歳の若者が来て、今、トマトをつくっています。今、ふれあいに出しています。

彼は、できるだけ無農薬出つくりたいと言っています。ふれあいの総会に行ったら、無農薬でつくっているブロッコリーやいろいろあるといいます。俺が安い値段で、ふれあいに売られていると、何でこんなになるんだろうかと、この次の総会に行ったら私言いますと、無農薬でつくったものが何であんなに安売りをするのかというふうに私思いますというふうに言っていました。

私もそう思います。無農薬っちゅうのは大変ですよ、量もできないし、だったら一定の値段を消費者に保証してもらわないと長く続かないんです。そのお年寄りに、今後私たちのような若者が、農業を本当に続けていくとあなたたちが思うんなら、もっと高い値段で売ってくださいというふうに私は今度言いたかったんですが、初めてだったんで言えなかったというふうに思いましたと。こん次の総会に行ったら、そのことは発言しますと行って、けさ私が来る前にうちに言ってきました。私もそうなると思います。できるだけ安ければ、安ければ農業は潰れるだけのことであって、一定の値段を消費者に出してもらう、その変わり、安全でおいしいものをつくるということ、農家の人は心がけなきゃならないというふうに私も思います。その点で農林課や政策推進課、町長も含めてぜひ第一産業で農林漁業に力を入れてもらいたいというふうに思います。

最後になりましたが、時間もありません。今、若い人たちが日出町で働いている人たくさんいます。また現在の社会は、男女とも働く社会です。保育園、幼稚園は、日出町は、それなりに完備されています。保育園には一定の定数を押していますが、何とかしています。ただ、問題は、子供が病気になったとき、両親が会社に勤めてたら休めないのです。

そのときは一番困るわけです。そこで、今、杵築市や別府市は、病児保育というものを始めました。杵築市は、今度から山香の病院で始めるそうです。日出町も、そういうものを始めたらどうでしょうかということは、私は、前回、交渉の中で町長にも、担当課にも話しました。ぜひそれを、杵築市や、別府市のようにやってもらいたい、やるためには何をしたらいいのかということも考えてお願いしたいと思いますがどうでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長、原田秀正君。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 佐藤隆信議員の病児保育の実施についてという御質問にお答えいたします。

保護者が就労している場合等におきまして、子供が病気の際に、自宅での保育が困難な場合、病院、保育所等において、病気の子供を一時的に保育するほか、保育中に体調不良となった児童への緊急対応を行う、病後児保育事業を行うことで安心して子育てができる環境を整備することは、必要性が高い事業と考えておるところであります。

事業実施については、初期投資や、収益性、職員の確保等の観点から、実施主体の確保が、今

段階では困難な状況になっております。

国におきましても、運営補助基準の再検討も行っており、子ども子育て計画策定におけるニーズ調査でも要望があることは事実でありますので、実施主体となり得る関係機関と十分協議しながら、事業開始に向けて努力していきたいというふうに考えてるところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） もう、時間がないわけですが、となりの杵築市も今度やるようになったそうです。そういうところの情報も聞き、予算的にはどれぐらいかかるのかという辺もぜひ聞いて、別府も杵築もやっているわけですから、ぜひ日出も人口約3万人近い、特に日出の場合若い人がよその市町村に比べたら多い、子供たちも多い中で、ぜひそれを実行してもらえるようにそういうところを調査しながら町長やってもらいたいです。最後です、答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 御案内のように、日出町は小児科医がお2人おられるんであります。ぜひ、そういうところが主体にならないといけないということになります。今言うように、課長答えたとおりであります。可能性について十分検討して、周辺地域でできて、日出でできないというのは大変不名誉であります。ですから、できる方向が模索できれば踏み切りたいと思います。

いろんな状況を十分に調査させていただきたいと思います。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） これで、私の質問を終わります。

○議長（熊谷 健作君） 4番、金元正生君。4番。

○議員（4番 金元 正生君） 御指名をいただきました、金元正生です、よろしく願いいたします。

質問に入る前に、議席をいただきまして、早いもので2カ月余りが経過いたしました、改めて町民の皆様の御支持をいただき、この場に立てることの責任の重さを感じている次第であります。と同時に、町民の方々の声を町政に反映させるというミッションの中、いろいろと御意見もいただいております。私自身、3月までは一町民として感じておった部分もございしますが、執行部の皆さんと、先見性と即時性を持って、住んでよかったまちづくりを推進し、結果を出すべく、全身、全霊で取り組む決意をお伝えし、早速ですが通告に従いまして一般質問を行います。

それから、質問させていただくに当たりましての順番ですが、提出いたしました通告書と異なりますので担当各課には連絡を入れておりますが、よろしく願いいたします。

まず、まちづくりのビジョンについてであります。

大きく2点質問させていただきます。

1点目は、これまで人口3万人を目指し、町長初め、執行部の皆さんも議会、あるいは地域、また住民の方々のいろいろな要求があり、大変厳しい状況の中、それを形にし、また成果として出して来られ、日出町は発展しつつあるという見方、評価であろうと思います。

しかしながら、この日出町も昨年は若干の人口減となり、4月1日時点での総務省のまとめでは、国内の14歳以下の子供は33年連続して減少しております。また、日本創成会議の分科会による試算でも30年後は8%に近い人口減が日出町も予測されておりますので、国による総合的な対処に加え、地域の実情に応じた取り組みと、財源確保が必要であるかと考えますが、どこを見ても、調べても、少子高齢化が進み、人口減が加速し、特効薬もなく、歯どめが効かない状況の中で、私はまずは定住者の確保を重点課題として取り組むことが急務だと考えます。

そこで、人口3万人を目指してこれまで取り組まれてきた施策、進捗状況をお聞きしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次からの質問は、質問席にて行います。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 金元議員の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、人口3万人を目標としてのまちづくりを推進する上で、目指す町の姿についてでございます。

日出町のまちづくりは、第4次日出町総合計画に掲げます、人と自然が調和したふれあいと活力ある町を将来像に、10年間という中期的期間を設け、4つの基本理念と40の基本計画を定め、まちづくりを行っておるところでございます。

基本計画は、基本構想に定めた本町の目指すべき姿を実現するために、必要な施策を具体的、体系的に明らかにするものであり、平成23年9月に後期基本計画を策定したところでございます。

町民の皆様が主人公であるということ認識をし、町民の皆様をまちづくりのパートナーと位置づけ、町民と行政とが手を取り合って、力を合わせてまちづくりを行っているところでございます。

特に、人口面につきましては、当町も昨年度に空き家バンクに報奨金制度を始めさせていただきました。本年度も新たに定住促進事業といたしまして、新築の報奨金、それから、子育て賃貸の報奨金も行っているところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） ありがとうございます。担当課の的確な御答弁をいただきましたが、現実としては、厳しい言い方になりますが、去年は若干の人口減になっておりますので、有効打にはなっていないというような状況にも受け取れます。

転入、転出の状況分析をしっかりと行いながら、人口3万人という目標から、やはり現実を見て、定住者の確保ということのほうが先決ではないかと思えますし、今が日出町のターニングポイントでもあると考えております。

そこで、町長の描かれております人口3万人の日出町を目指す上での、プライオリティの最も高い大きい柱となる施策は何か、どうお考えになってるのか、ぜひお聞きしたいと思えますのでよろしく願いいたします。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 大変難しい御質問で、恐縮であります。私、先だってから新聞、テレビ等で出ておりますように、人口の減少、30年経過後はどうなるかということですが、大分市が7%ぐらい、日出町が8%ぐらい、10%未満はこの2つだけであります。

大分県全体の人口が、九十三、四万になる、これ20%以上の減少と、こういうことになる。そういう時代で、今2万8,600ぐらいであります。いずれ、そうなった30年後は日出町が2万6千人台であります。

ちょうど、よそのことを言って恐縮ですが、隣の杵築市は、2万2千を若干下回るかその前後だろうと思えます。国東市がどうなるかという、2万人を割って1万七、八千だと、こう言われておるわけ。

ですから、私は、日出町が何とかとどまって、減少が比較的少ない町として、今後とも維持していきたいと、私は3万人はぜひ目指したいわけですが、よそがどんどん人口減少時代に日出町だけがふえるってことは、なかなか困難であります。

しかし、あえて挑戦をすると、そういうことで空き家対策であるとか、住居対策、子供対策、教育対策、全てこれは日出町が自慢に思い、また誇りに思えるような、皆さんがぜひ日出町に住もうという意思決定をしていただかないと人口はふえないわけであります。

今、いろんな形で、定住関係としては、内野地域のアール・ジェイ・エステートという会社が88区画、同じく同地域で31区画、豊岡もあちこちありますから、150区画程度の宅地造成はほとんど済みかけて、今から入居が始まるわけですが、いろいろお聞きしますと、どうしても日出町は金融機関の融資サイドが厳しいと、こういうことが言われております。

何とか、多くの皆さんが融資を受けられて、自己資金だけでっていうのはなかなか困難であります。そういう環境条件もしっかり整えていかないといけないと、何にも増して私はそういうことを考えると、日出町の歴史的、文化的な、あるいは自然条件、あるいは交通を含めた条件、す

ばらしい日出町は状況にあるわけでありますから、これを生かさない手はないわけであります。

そういうふうなことから、城址周辺の整備であるとか、暘谷駅周辺の整備であるとか、佐尾地区の整備であるとか、いろんな状況を整えつつあるわけであります。

大変ありがたいことには、3月20日には、10号線の4車線化も大変できて、日出と藤原地区が一体化が進みました。いろんな条件が整備されつつあります。今後とも、もっともっと整備していかなければいけないと、そういう状況を踏まえますと、私は、その中で医療の問題でありますとか、教育とか、あるいは福祉の問題とか、先ほども御質問がありました企業誘致とか、やっぱりいろんな問題が課題になってまいります。

こういう課題をしっかりと捉えて、日出町は私は国東半島の中心地域の中心の町になるんだと、こういう思いを皆さん職員一体となって、持って、今いろんな環境条件の整備に向けて努力しております。

私は、ぜひとも明治、あるいは大正期は日出町は大変にぎわいな町でもあります。そういうことを考えると、夢を再びというようなことで、大分、別府を除きますと、私はすばらしい発展条件を備えた地域にあるということでありますから、これほどの部分をどうつということではありません。

よそから見て、日出町はいろんな面で優れてるという評価、ぜひ日出町に住もうと言っていただけることが一番重要でありますので、どの部門も皆重要であります。精いっぱい努力させていただこうと思っております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、御答弁いただきましたが、高めに目標を設定するというのも、非常に大切かと思えますし、先ほど政策推進課長さんからの取り組み、それから今、町長さんからは、町の特注売りについての部分も御説明も少し入りましたが、この点について後ほど質問させていただきたいというふうに思いますが、この取り組み、少なからず4つの基本理念の中で40項目ほどございましたが、これ全て取り組みながら、進捗と並行して不具合についての対処、それから費用対効果を検証しながらやれば大変いいことだと思いますが、私も2年半ほど生涯学習課にお世話になりまして、今の職員の状況から見ていろいろと仕事も掛け持ちされておられる中で、キャパ的にアクシャルとして、それはなかなか難しいのではないかなというふうに思う次第でございますが、私は大きい施策、例えば定住者確保という1本の柱があって、それに付随した対策がついて来るという考えの方が、今の日出町の現状にあった形のものかなと、非常にやはり確立が、人口減という確率が高いという中で、もう少し絞り込んだ施策を行わざるを得ない状況であろうかと思えますが、いかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 私は、ここに職員皆います。管理職です。それぞれの部門を責任を持って担当してる人たちであります。私は、それぞれの各部門が先ほどからなっております課題、問題、目標をしっかりと持って、その目標に向かって前進すると、そういうことが私は重要であろうと思います。

私も、その中心になって、ある意味では定住関係から言えば、私は定住だけしても環境条件が整わないと、なかなかそういうことにはならない、やっぱり一体的にする、中心はもちろんありますが、どうしたかということで、今、周辺の環境整備やっております。道を非常に整備するように努力、今、日出町全体として17本の町道の整備を行っております。

そうしていけば、宅地用地が提供されるわけで、そこにまた、家が建ってまいります。そうすると、多くの人たちが日出町に移り住んでいただける、日出町は御案内のように農振の指定を受けています。そしてまた、農地の開発行為がある、ですから時間がかかるということから、なかなか宅地開発ができないという状況もあります。

それは、積極的に道をつくることとどうと、じっとしとればソーラーになってしまいます。私はソーラーよりも、やっぱり住宅と、もっと土地の有効活用を図るべきだところ考えてやっておりますので、十分費がついてないと思いますが、重点的なものもありますし、各部門上げて頑張りたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今後につきましては、対策可能なキャパシティの準備をしっかりとしてから、スピード感を持って、しっかりタイムリーな策を講じていただきたいと思います。

それから、担当課の方々におかれましても、担当領域のスケールはあるにしろ、情報の共有化という領域では重なるところがあるかと、多々思いますので、その分は、十分にアライメントをとっていただくという改善も行っていただきたいということを申し上げまして2点目の。

○議長（熊谷 健作君） 金元議員、済いません、ちょっとお待ちください。

お諮りします。一般質問の途中ですが、ここでしばらく休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、しばらく休憩いたします。午後1時10分より再開いたします。

午後0時04分休憩

午後1時10分再開

○議長（熊谷 健作君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。4番、金元正生君。

○議員（4番 金元 正生君） 午前中に引き続きまして、午後からもよろしくお願ひします。

それでは、2点目の日出町の特徴と申しますか、売りについて質問いたします。

日出町は、自主自立の道を選択したわけですので、財源という点で、特例債を始めとしていろんなお金が使えない中、先ほど町長のほうからもお話がございましたが、日出城址周辺の歴史的町並みの復元や、商業施設の誘致、暘谷駅周辺の整備も着々と進んでおり、また、学校の耐震化100%も完了し、かなりの御苦勞があったと御察いたしますが、これから日出町の特徴として、何を町の売りとしていくのかというところにたどり着こうかと思ひますので、今、行っているイベント開催や施設利用、あるいは、観光での現時点での参加者や、集客についてお聞きたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） それでは私のほうから、日出町の売りを含めた取り組むべき柱の優先順位ということで、御答弁さしていただきたいと思ひます。

日出町は、歴史から見ましても、別府市や国東半島を含めた県央の中心的な役割を担ってまいりました。今後も中核的な自治体に発展していかなければならないというふうにご考慮のところでございます。

日出町には、恵まれた自然環境がございます。各地域には、すばらしい歴史的、文化的資源が多く残っております。このような特色を生かしながら、地域の活性化を行っていき、町の魅力づくりを総合的に行っていくことが必要というふうにご考慮のところでございます。

住みやすい町、住んでよかったと思える町、また、誇りに思える町、このまちづくりを実現するためには、優先順位をつけるのではなく、今後とも恵まれた環境を保全整備し、地域力を高め、歴史的、文化的遺産を活用した総合的に考えたまちづくりを行っていきたいというふうにご考慮のところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、御答弁いただいた中で、具体的な数値化したデータ、もしございましたらお願ひいたします。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 数値的な分は今持ってませんので、後ほどお答弁をさせていただきます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） また、後日そのあたりはいただきたいと思いますが、以前、私がいただいた資料でいきますと、観光ブームが、観光客の総数については減少してはいますが、消費額が上がっているような、商工観光課さんからいただいた資料がございますが、その辺の詳細がわかればお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 今、手元に資料ございませんけども、最近三、四年間、観光客数については、90万代で推移をいたしております。そういう中で、観光消費額ふえたということは、旧亀の井ホテル、今アメイズになっておりますが、それが新たに進出したとこのことで、そういう中で宿泊客が九十何万人の観光客数の中に占める割合がふえたということで、そういう部分で消費額がふえたというふうに認識をいたしております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） そういう意味ではアメイズホテルさんの戦略が功を奏したということで、これは企業誘致が成功した部分でもあろうかと思いますが、私が聞くところによりますと、外国人客が別府ないし、国東半島関係の観光を回って、日出で泊まって食事をされるというようなところで、せっかく近くに身近にいい材料、ノウハウを持つてる会社があるわけですから、この辺あたりと接点を取りながら生かしていただきたいなというふうに思います。

もう1点は、これから今までいろんな角度から施策を打たれてきて、検証を行って、今度は絞り込んだ対策が必要かと考えます。そこで、再度、町長にお聞きしたいと思いますが、これからの日出町の特徴、それから、アメイズホテルさんが戦略を攻めた以外に、現状の維持、もしくは若干尻すぼみになったようなイベント等もございますが、これらの改善策、またはどこにフォーカスを当てて、日出町の特徴を、活路を見出そうかというお考えを持っているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 日出町は、今、90万ということがありますが、私はかなりそれよりも上回ってきていると思います。なぜかって言いますと、別府湾ロイヤルホテルは、非常に宿泊関係あちこち来てます。ツアーが大変多ございます。

それから、糸が浜のソラージュ大分日出であります。これは、家族を含めていろんな方がたくさん行ってます。それから、ここのアメイズ、亀の井ホテルのあとでアメイズであります。これは私は、別府大分から全部、国東半島周辺の活動は、あるいは取引、あるいは商談等について、ここから皆動くようになってきております。

地元のホンダ太陽、そのほかの皆さん方も活用するようになっております。ですから、リゾートとして、それから観光の拠点として、ビジネスの拠点として、私は非常に日出町は、多彩になってきたとそういうふうに思っています。

そういう中で、私は以前よりは20万以上の入れ込み客の増加はできてきてる。おまけにお城周辺、あるいは的山荘と、そして大変ありがたいのは、大神ファーム等に、非常に活用が多くなってるということもあります。

それから、ここ一、二カ月でも、また回天基地周辺が大変多くなってるということがあります。したがって、鈴木養鶏あるいは、関口農園、いろんな全体的に見ますとバランスよく、それぞれの地域にいろんな施設があるということでもありますから、ハーモニーランドも非常に営業成績を上げてきていると思います。全体的に私はすばらしい面が多々出ておりますので、観光的には今後、ますます伸びていくだろうと思います。

それから、企業関係についても先ほどお話がありましたが、約十数社、十三、四社とありますが、日出に本社を置くとか、あるいは活動の拠点をいろいろ移してくるという状況がございます。

なぜかと言いますと、非常に日出町は、いろんな状況が非常にいいというようなことを言われておりますので、そういう意味からすると、ホンダ太陽がここ本社を構えたり、あるいは、いろんな会社が、それから今1つ私が強調しておきたいというのは、日出町の企業が少ないように言われますが、ベンチャービジネスとしては、大分県切っただけの地域だとそういうふうに思っておりますから、いろんな午前中も質問がございましたが、いろんな問題、課題をしっかりと克服しながら地域づくり、企業誘致、人口がやや横ばいになりかけておりますが、働く場所がなければ大変課題であります。

働く場所、そしてまたベットタウンと言われておりますが、ベットタウンというのは、私は大変言葉としては余り歓迎してないわけで、ベットタウンじゃなくて私は日出町を中心にしながら、商業的機能、サービス機能もここに備えて、ここに日出町の皆さん方が住んでいただく、こういう町でならなければ衛星都市であってはならんとそういうふうに思っておりますので、いろんな観点が私は日出町の中にある、特にすばらしいのは、歴史、文化的遺産がたくさん残っておるといことが、私は言えるんじゃないかと思えますので、精いっぱい活用して、しかも、空港と大分との周辺の中ほどにあるということでもあります。非常に交通の便利がいいし、高速道路もありますし、あるいは駅があったり、環境も、あるいは自然環境もすばらしいしということですから、私は人が住むときに、私は日出町を非常に歓迎されると、しっかりと磨きをかけて地域力を高めていけば、減る時代にあっても、精いっぱい努力すれば横ばいか、やや下降で済むんじゃないかなとそういうふうに思っておりますので、先ほどから申し上げるのは、あらゆる面を総動員して、地域づくりを今後ともやってまいりたいと、お答えになってるかどうかわかりませんが、精

いっぱい頑張りたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 4 番。

○議員（4 番 金元 正生君） 今、町長から観光の拠点というようなお話をいただきましたが、集客という面ではリピータープラスアルファの部分がないとなかなか伸びてこないと思いますので、ぜひそういう視点での駐車場も含めて、環境整備を検討していただきたいと思います。

それから、日出町の特徴、売り、または定住者という面においても、近くにAPUという大きな大学もありますので、そのあたりも視界に入れた取り組みもできればしていただきたいかなというふうに思います。

この件につきましては、もう少し掘り下げたいところですが、時間の都合もございますので、次の質問に移りたいと思います。

次は、日本テキサス跡地の利用についてでございます。

私ごとでございますが、30年私もお世話になった会社でございまして、昨年、残念ながら閉鎖となり、非常に寂しい限りでございますが、町に全面譲渡ということで、書面上では5月いっぱい、町の所有になったわけですが、2点ほど質問させていただきたいと思います。

まず1点目は、どう有効利用するかという部分で、プロジェクトチームがあるとお聞きしましたが、譲渡から40日経過いたしまして、現在までの有効利用についての調査、検討、それから進捗等お聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） それでは、私のほうからTI社の譲渡を受けての話があった後の行政の取り決めについて、若干御説明をさせていただきたいと思います。

昨年末に無償譲渡の話を受けまして、関係各課を集めまして協議をするプロジェクトチームを組織させていただいたところでございます。

特に、2月に入りましてそのプロジェクトチームを3つの班に分けさせていただきました。まず、1つが、役場機能が移動する場合、どういう内容が移動できるのかという検討をする、役場機能移動検討班。

それから、現工場棟や事務所棟、これを民間企業が利用する場合、どのような内容について改修や工事をしないといけないのか。特に、上下水道、これをすぐに使うようにした場合、どういう工事をしないといけないのか、そういう問題や、搬入道路、これをどうするのかということを検討する工場棟改修計画班。

それから最後の1つですが、民間貸し出しを行った場合の役場の受け入れ態勢や、貸し出し基準、それから維持管理の方法、それを検討する、民間貸し出し検討班、この3つのグループに分けて現在検討をしてるところでございます。

企業の誘致、それから維持管理法につきましては、各担当課から御説明さしていただきたいと
思います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） それでは、商工観光課のほうより、今現在の進出希望企業等について若干説明させていただきます。

今現在、9つほどの団体及び企業から希望がっております。主な業種としましては、企業につきましては、製造業でございます。それから、企業以外に学校関係の団体が2つほど興味を示しているところでございます。

それで、今現在既に工場見学を3つほどの企業及び団体が工場見学を行っているところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 答弁はいいですか、以上ですか。4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、ちょっとお聞きした限りではまだ確定したものが無いという認識でよろしいようにありますので、7月いっぱい私がお聞きした話では、T I側のほうの都合で7月以降と、町の管理というような形であったらと思うのですが、まず最初の段階で譲渡を受ける前、県へ報告ないし、サポート要請等あったのか、なかったのか、方向性といいますか、指導ないし、助言等があったのかという部分で、基本的に日出町の責任において、管理をもう行わなければいけないのかという、そのあたりをちょっとお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 県につきましては、そういう日出町に譲渡という話が、昨年ありまして、その後1月、県のほう企業立地推進課のほうに行きまして、こういうお話があるということで一応御報告させていただきました。若干、相談等もさせていただきました。

それから、その後5月になりまして町長のほうから知事等に今後の利活用の関係で企業等の斡旋、紹介等をぜひお願いしたいというようなことで要望もいたしております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 基本的には日出町が主となって、維持管理を行うんであるというようになんか今思いをしましたが、譲り受ける前、そこは順序としてメリット、デメリットをしっかりと洗い出して、活用についての見込み、構想を絵に書いて、次の段階の譲渡に入るべきであったらと思うのですが、これはいただいちゃっているという状況ですので、そこを議論しても始まりませんので、午前中も土壌汚染につきましては、佐藤隆信議員のほうからちょっといろ

いろ質問がございました。

鉛については、町長が言われました、薬品をたくさん使っていた工程からではないというふうには私は思っていますので、その辺しっかりとまちよつと確認していただきたいと思います。

もう1つ大きな問題として、耐震の問題が残っておりますが、この耐震の診断のほうは、以前全協でちょっとお聞きしたときに、町のほうで行うということであったと記憶しておりますが、この点についてはちょっと間違いないでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長、川野敏治君。

○財政課長（川野 敏治君） ただいまの耐震調査について御質問にお答えします。

今回、6月議会のほうで、補正予算のほうを計上させていただいておりますが、その中でテキサスインスツルメンツの工場跡地の維持管理費、こちらのほうも計上させていただいております。

その中で、利活用するための施設整備という形で東西南北4棟の耐震調査をやるような形で予算を計上させていただいております。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） それでは、もう譲渡されたわけですから、耐震診断に対するスケジュールをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長。

○財政課長（川野 敏治君） 今年度、26年度中に、恐らく耐震調査がそのくらいの時間がかかる必要であるかと思われま。

そしてその耐震調査の結果によりまして、今後耐震補強が必要なかどうか、その結果によりましてまた対応のほうは考えてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 先ほどちょっと言われました分で、特に工場棟については、東西南北、特に最初に建設されました西棟と南棟の半分、これは一番古いもので48年で、41年たっております。その間、リペア等は行っていたとは思いますが、構造上、その当時の建築基準のものでございますので、耐震基準をクリアしているのかどうか、かなり疑問に思います。

なので、こういうところも含めてしっかり調査をお願いしたいと思いますし、アジアの中では生産の競合激化に対応できない工場であったことが閉鎖に至った大きな理由の一つでもありますし、パッケージ開発が町に全面譲渡した際に、部分的に借りることも可能なわけでありましたが、わざわざ日出ハイテックの一部を借りて操業してるという事実もございますので、この老朽化した特殊な大きな建物をどう利用するかということで、喫緊の課題として、給食センターの建てかえをということを検討されていって、テキサスの跡地に移転するというようなことを検討されているという話もお聞きしましたが、このあたりは町長のお考えはいかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 今の質問に関連して、調査にちょっと若干前の話をいたします。メリット、デメリット等については、随分内部にで検討さしていただいて、ここに資料もあります。必要であれば差し上げたいと思いますが。あそこは六十二、三年ごろ最盛期として、1,800人と、2千人と言われた時期があります。その時期を踏まえた、ちょうど今給食調理場があります。あれが、私の検討としては、あの間、今じゃなくて、ほとんど使って給食センター的機能が果たせるかどうかということを経営で検討して、大体どのくらいの資金が必要であるというようなことについてはして、ある意味では高すぎるんじゃないかというふうに思って、再度検討さしていただいています。

新たに建てるほうがいいのか、いただいた土地を使ってそこに建てたほうがいいのか、そういうことは今後の検討課題になります。今、どうこうとはっきり結論が出たわけではありませんが、今言われたような点については、相当検討しておりますので、さっき言いました、財政課から説明がありました耐震強化を含めて、早急にというふうに思います。

私もさきの、ついきょう月曜日であります、日曜日に東京、岡山のほうからの視察がございまして、私と商工観光課長同行して、会社を全部一巡をさしてもらい、もう私は五、六回ぐらい一巡して見ておりますが、皆さんちょっと広すぎて利用がしにくいという点があると思います。

今言われたような、西棟と、若干課題が、時間がたち過ぎてるといふ点があると思います。あるいは、クリーンルームをどうするか、3階ぐらいになってまじたり、そういうことの皆さんが検討して、課題においてかえる。

私どもが今考えてるのは、高圧の問題とか、低圧の問題、いろんな問題があります。それから、下水処理、循環装置でありますから、下水問題をどういうふうに解決するかということで、下水工事を今、下のほうで行って、できるだけ早くつなぎ込みをしたい、そういうふうにいるいろいろ考えておりますが、本格的には、7月中に全施設が搬出されるということでありまして、私も今年1年間には十分検討さしていただいて、具体的に入居、そのほかというのは、難しいんじゃないか、そういうふうに思っておりますので、着実に今年度は調査、検討する中で、業者も9社、10社ぐらいありますが、具体的にお見えになったのは、3社、4社であります。

私は、ちょっとびっくりしております。土地、建物全て、くるみで移管できないかという話があったりしておりますので、ちょっと話が大き過ぎたりするんじゃないかなと思って、十分慎重に対処したいと思います。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 給食センター等々については、検討課題ということで、この跡地

の利用について、私が危惧しているところは、テキサスのほうも譲渡先をあれだけ1年、2年かけて、探しても見つからず、廊下でもあれだけ広く、贅沢な建物を、棟単位でも借りてくれるような状況になればいいなとも思いますが、それもなかなか厳しいかと思しますので、何も利用しない状況の中で、維持管理費がかなりかかると思われしますので、そこは何とか町民の皆さんの理解が得られるような形で、できればその中で地元雇用、それから福祉の町とも言われておりますので、障がい者の雇用も視界に入れて、早期で方向を出していただくことをお願い申し上げ、T I 跡地の有効に付随した2点目の質問に移りたいと思います。

2点目は維持管理について、本日は雇用の部分に限ってお聞きいたします。

日出町役場ではテキサスの工場跡地の管理及び連絡調整スタッフを非常勤職員として2名募集されており、応募の締め切りが6月2日であったと思いますが、応募の状況と、仕事内容についての詳細をお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長。

○財政課長（川野 敏治君） それでは、応募の状況についてまず申し上げたいと思います。

6月2日の時点までで締め切った関係で、応募につきましては32名ほど応募が出ております。

ただ、この中ではテキサスインスツルメンツ社のOBといますか、施設の関係とかそういう関係に携わった方以外も何人か出ていらっしゃると思いますので、今後、書類選考、それから最終的には面接等行って決めていくような形にしたいと考えておるところでございます。

仕事の内容につきましてでございますが、私どもの希望といたしましては、どうしてもこれから当分の間維持管理を行っていく形になるわけでございますので、その中で、やはり施設に詳しい職員を採用して通常の維持管理、それから異常時の対応、消防設備とか、緊急のときの対応をどうすればよいかというものが、まだはっきり把握できてない部分も多々ございます。

また、警報の確認、警報装置等につきましても、どういう仕組みでなっているかというのが最終的なところまでは、まだ把握できてない部分がございます。そういう部分に関しまして、やはり一番いいのは、工場のほうでそういう施設の事に携わっていただいた方がもし来ていただけるような形になれば、我々としたら一番望むところかなと思っておりますのでございます。

それから、あと、これから利活用についていろいろ現在先ほど申し上げましたように、何社か既に申し込みが来ております。そして、最終的には利活用が決定したら工場の中で活動するような形になるわけでございますが、実際に貸し出しできる部分と、共有部分、これは明らかに区分して管理していく必要があるかと思っております。

また、いろいろな連絡調整という形で、利活用するほうの方と、我々町のほうとやはり相談しながらやっていく部分もあろうかと思っております。現地のほうで、そういう役目をやっていただく方という者も必要になってくると思しますので、できればそういう役目も担っていただけるような

方を、今回採用できればなと思っているところでございます。

大体、そういうところです。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 採用については、32名ほどと、それでまだ確定されていないということなんです。今、テキサスのほうで管理体制としては、夜勤も入れてやっているような状況なので、私が一番心配しているのは、工場棟も含めた敷地内での事件、事故等が一番懸念されているわけなので、その辺、当面工場棟は空の状態にしよ、事件、事故があってはなりませんし、事故を未然に防ぐために、さっき課長のほうからもありましたが、停電時のトラブルとか、特に消火設備等の法定点検も見落としのないように確認させていただきたいと思います。

それでは、最後の質問に移りたいと思います。

教育環境の整備という点で2点質問させていただきます。

まず1点目は、平成12年から私も5年ほど、PTA活動をお手伝いさせていただきましたが、確か、平成13年だったと思いますが、給食の自動引き落としが始まり、いまだその当時とかわかってないと思われるのが、給食事務作業についてですが、その前にちょっと誤解が生じるといけませんので、一言つけ加えておきたいと思いますが、この件については現職の先生から頼まれたとかいう部分ではございませんで、給食費の自動引き落としというシステムが導入されて、私もその時代に即したシステムであるということで賛同しましたが、その当時から給食事務作業については、学校の先生方が行う公務ではないと思ひまして提案させていただいたこともございます。

教育環境を充実し、学校の先生方には、本文である教育に専念していただくということが成果につながる近道とも考えますので、確かに教育の一貫として、食育も大きなウエートを占めると思いますが、給食事務、また未納にかかる作業につきましては、教育と切り離して取り組むべきであろうかと私は考えております。

そこでまた、給食費に関する事務作業についてどういう事務作業をやられているのかという内容の説明と、他市町村の状況がわかればお願いいたします。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長、宇都宮敏樹君。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） では、金元議員さんの御質問にお答えいたします。

まず、学校給食の口座振替の事務につきましては、学校の教頭先生が行っております。まず、入学予定者の口座情報を新たに入力し、卒業された方については、消去していくというふうな事務がございます。

それから、毎月の督促事務、それから口座不能の方の督促事務、から、そういう事務がございます。

その事務につきましては、もっぱら教頭先生が行っている状況でございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 他の市町村の状況がわかれば、ちょっとそれをお願いいたします。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 済みません、失礼しました。

他の市町村でございますけども、杵築市、国東市のほうにつきましては、教頭先生がやはり同じように行っているというふうにお聞きをしております。ただ、別府市のほうにつきましては、別府市採用でありまして、若干の雇用は少し異なりますけども、非常勤、公務員をおきまして、その事務を行わせておるといふような状況をお聞きしております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 学校内の事務作業の仕事量ですが、かなり多いと思いますし、お金を扱うわけですから、即時に処理を行っているというような状況だろうと思います。

私が知り得る限りでは、18市町村のうち、15市町村が非常勤職員さん等を雇用して、その事務処理を行っているというような私の調べではございますが、日出町も本分の学校教育でいきますと、学力の面はかなり御努力されていい数字が出てると思いますので、もう少し学校の先生方には、本分のほうに専念していただいて日出町も周りの市町村がやっているからというのではなく、他市町村がその体制が望ましいから、そういう体制になったのであろうと思いますので、その辺、今現在教頭先生が処理している事務作業について、専属の担当者の設置をぜひ検討していただきたいと思いますが、その辺いかがお考えでしょうか、教育長、お願いいたします。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） 今の実態が、特に大きく出るのが、新学期始まってということになります。

年間の事務量からすると、今が4、5、6と、大体トップシーズンになってくるというふうに把握してるわけですが、そういった状況の中で、それから教頭先生の事務負担という部分です。この実態等考えたときに、専属の給食事務にかかる方だけを配置するのが、果たして効率的なのかということも考えなければいけません。

その意味で、今、学校には町の職員という形で、公務員さんを配置してございます。この勤務形態、今、非常勤から臨時職員という形に切りかえを行っているところでありますけども、これの今状況の中で、効率的な人員の配置の観点からすれば、今の校務員の方々にも、そのへんのところの用務を補助していただくと。

これ、こと現金でございますので、やはり管理監督するのは、学校側という形で、本来校長で

はあるんですが、教頭のほうがしっかりと指揮監督する中で、例えば現金の授受とか、そういった事実的な行為について、常に教頭が保護者が現金を持ってくるのを待って、本来の学校の業務がおろそかになるということがあってはなりませんから、そういった限りにおいて、校務員さんとの補完性で、していく方向を検討していきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 前向きな発言をいただいたと思いますので、ぜひ、スピード感を持って、対処していただければと思いますし、合わせて未納問題につきましても検討していただきたいと思います。

続いて2点目ですが、学校の営繕作業、校内管理の草刈り等の作業についても、内容は一緒なんですが、この作業についても内容と、他市町村の部分の状況がわかればお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） では、学校の営繕作業の分についてお答えをいたします。

学校周辺の草刈り等につきましては、各学校の対応をお願いし、保護者などの協力によって実施しているのが現状ではないかというふうに思っております。

他市町村のほうですが、特にこれについてお聞きした町村がありませんので、情報としては持っておりません。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） この件につきましても、公務と切り離して望ましい体制を御検討いただければと思いますが、この件につきましても、18市町村で、ほとんどの市町村がシルバー人材センターですとか、教育委員会から派遣された方ですとか、そういう形で、こういう作業をやられておるようですので、その辺の調査を含めて前向きに御検討お願いいたしたいと思います。

それで、最後はこういう話になりますと、総務財政という部分で、町長部局になろうかと思えますので、町長の御見解をお聞きしたいと思えますので、よろしくお願いたします。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） まず1点は、学校給食です。学校給食は十分御案内のとおり、これは個人的なことも、保護者の負担経費でありまして、公金ではございません。

したがって、それぞれが校長先生を中心にしながら集めてというのが実態だろうと思います。

公金扱いをするかどうかという点が課題であります。どうしたらいいのか、私どもも町長にな

ってから、随分内部では検討させていただいておりますが、なかなかそこまで行きついておりません。

やはり、あくまで子供たちの経費を集合して集めて、その分について、管理運営費、水道光熱費だとか、人件費とか、それは全部町の1億2千万くらいの負担をいたしておりますが、皆さん方が、保護者が負担してるのがやっぱりそのくらいの金額になると思います。

そういうことで、これを公金扱いにしてどうすんのかという点は、今言われるようにどうしたらいいのか、もう少し検討して、場合によっては学校給食会とか、あるいはまた皆さん方で、管理運営を、保護者の皆さんで若干助成していただいて管理していただくか、その辺の管理の仕方はあると思います。

今1点の、学校管理であります。これは、学校または、教育委員会において、本来財産でありますから、管理すべきものだと思います。

したがって、保護者、家庭の皆さん方の御協力をいただくのはいいとしても、本来学校の管理運営は教育委員会において管理すべきだろうと、予算の中ですべきだろうと、一部学校でできるもんもあると思いますので、PTAや学校の皆さん方の協力を得ながらどうしていくかということでもあります。

いずれにしても、管理運営は校長先生にしっかりやっていただいて、予算はどうするかという点があると思いますので、十分検討させていただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、町長のほうからお話でしたが、公金という部分については、県内でも2市2町ほど、もうやられているようなところがあるようですが、前向きに検討していただけるというふうな捉え方、私もしておりますので、このシステムが構築できて、さらに学校の先生方が本分の教育に専念していただいて、成果を出すことによって、これが日出町の売りにもつながり、子育て世代の定住者確保にも発展する可能性を秘めておりますので、早期の対処をお願いして、対処していただきたいと思いますし、私も継続して今後ともウオッチしてまいりますので、進捗等ございましたら、フィードバックもいただければと思います。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（熊谷 健作君） 9番、工藤健次君。9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 9番、工藤健次です。通告に従って一般質問を行います。

はじめに、農業施策についてお尋ねします。今、日本の農業はTPPの問題等で大きくかわろうとしています。

政府も農業改革を加速し、農業委員会の権限縮小や、農業生産法人への出資制限を大幅に緩和

させ、企業の資金やノウハウを活用し、攻めの農業への転換を図るなど、国内農業の強化に向け、農業生産法人、農業委員会の改革を3点セットで断行すると打ち出しました。

大分県は、2011年から新規就農者を1千人ふやすなどの取り組みをしています。日出町の農業も高齢化で後継者の不足や、農地の荒廃など課題が山積をしています。先ほど同僚議員の質問の中にも出ましたので、まず町の農業について、どのように考えているか、簡潔に御答弁をいただきたい。

あとの質問は、質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長、岡野修二君。

○農林水産課長（岡野 修二君） 工藤健次議員の質問にお答えいたします。

農業の課題をどのように考えているかということでございますけれど、農業につきまして一番問題になっているのは、農業従事者の高齢化、そして後継者不足、そして、もうかる農業というのが実現できていない場合が多いと、そういうところが多いと、そういうところが大きな課題だと思っております。

実際の要因といたしましては、水田農業におきましては、やはり米価が下がっていると、また、日出町の場合ですが、圃場条件が悪く、効率的な作業ができていないと、機械につきましては、更新するのに費用がかかると、また、今耕作者が減少しておりまして、ため池や水路の管理がうまくできていないと、その辺に問題があると思っております。

また、畑等、園芸作物につきましては、やはり収量や品質が天候によって左右される、それから、燃油価格や飼料、資材等の価格が値上がりしてると、それから販売価格がやはり思う通りにはいかないと、その辺に要因があると思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 農業問題については、時間もかかるし、いろいろ環境も変わってきてるんで、なかなかすぐに政策を出したからって言って、すぐには進行していかないと思うんですけども。

それでは、2番目に、後継者不足の具体的な取り組みということで書いてるんですけども、先ほど新規就農、県のほうは5年間で1千人ということで打ち出してまして、日出町の場合は、先ほど同僚議員の質問の中にも出ましたけども、5年間で多分20人ぐらいの新規就農者が出てると思うんですけども、自営でやってる方がどのくらいいるんか、それとも農業生産法人等に就職をした方がどのくらいの割合でいるんか、ちょっとそこら辺をお聞かせいただきたい。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 先ほど、新規就農者、年度ごとに午前中の質問でお答えしてい

ったわけでございますけど、21年の2名入っている方は、それぞれ自分でやっていると、そういう状況になります。

それから、22年が7名だったわけでありまして、4名が自営でやっていて、3名が法人への雇用という形でやっております。ですから23年の2名につきましては、1名が自営で1名が法人への雇用、それから24年が9名だったわけですが、3名が自営で6名が法人への雇用と、それから25年が2名ですが、1名が自営で、1名が企業への雇用と、そういう状況であります。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 自営になかなかいくのが難しいし、最近、新聞の記事を読んでも、毎日のようにこの農業問題について記事が出てます。就農しても15%ぐらいの人が離れていくと、そういう実態もあるんですけど、この就農した方のあと、どういうふうに行政のほうに関わってるかというのをお聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 就農について、就農以前に研修資金とかあるんですけど、そういうのを借りてる方につきましては、償還部分につきまして県と、町で補助をするとか、そういう関わりを持っておりますし、そのほか、実際に県や農協と一緒にしまして、実際現地で実際の営農状況を見せていただきながら、いろいろ助言指導を行うと、そういう形で関わっていると、そういう状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、ずっと関わっていったということなんですけども、日出のその就農した方、自営とかで、就農した方、離れた人は把握はしてないですか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 就農した方の中で、うちが把握できてる範囲なんですけど、1名は当初は日出町でやっていたんですけど、その後町外のほうに移って営農していると、そういう事例がございます。

また、もう1名の方につきましては、農業大学校を出て、自分の家に戻ってやっていたんですけど、現在はもう農業を離れているとそういう状況も1件ございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、なかなか離れる人もいると思うんですけども、町独自にこの就農対策で何か取り組んでることはありますか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 町独自では、今農業、若い方では農業後継者の組織がございま

すけれど、そこへの活動の支援補助金を出しているとか、それから、農業大学生等に対する奨学金制度もございます。それから、先ほど申し上げましたが、就農前に研修期間を設けて、そこで就農研修資金を借りていた方につきましては、償還に対しての補助を行っていると、そういう状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） その件、あとのほうと関連するんで、その次の1次産業と6次産業との連携ということで、3年ぐらい前でしたか、農協の加工所を補助金を出してつくったと思うんですけども、その3年間のどういう過程で、今推移しているかということ、把握している範囲で、御答弁いただきたい。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） お答えいたします。

J Aの加工施設につきましては、昨年でございます。昨年から稼働を行っているところでございます。加工施設の中で、実際つくっていますものがみそ、それからかりんとう、弁当、総菜、それから乾燥野菜、野菜パウダー、果汁、ジャム、それからパン、それから漬物等、そういうものに取り組んでいると聞いております。

運営につきましては、J Aの女性部の方を20名雇用しまして、パートという形で運営を行っている。

それから、昨年の年間売上高といたしましては約1,700万円と、そのように把握しております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） しかし、農業問題は、ずっと環境を整えていくことが一番大事じゃないかと思うんですけども、今多分、その加工所、原材料とかも、多分町内の農家の方のやつを100%多分使っていると思うんですけど、そこは確認をしますか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 済いません、全て確認をできているわけではございませんが、基本的には地元の食材を使っていると、そのように伺っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 先ほども就農のところでも言ったんですけども、やはり補助金を出した以上は、やはりずっとこう5年ぐらい最低は確認をしていって、また知らせるあれもあるんじゃないかと思うんですけども、それでは、もう一つ、その次の質問に行きます。

新規就農者や生産者の技術的な指導体制は、行政としてはどのようにかかわっているかという

ことをお聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 栽培技術等の指導につきましては、やはり町としましては指導する者もいませんので、基本的には県の技術指導員の方、今、東部振興局のほうが基本的には担当になっておりまして、それぞれ作目ごとに担当がいますので、そういう方がこちらに来て指導すると。また、農協関係者、農協への出荷者等につきましては、農協の指導員のほうが指導しているという状況でございます。

町といたしましても、全て任せっきりにするというわけではなくて、できるだけいろんな都合がつけば、一緒に、県の方や農協の方と一緒に現地に赴きながらいろんなお話を聞かせていただくと、そういうことをやっている状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、またもう一つ、その次の質問に行きますけども、関係機関の、先ほど出たように、農協とかそういうところの連携体制がきちっとできてるかということを知りたいんですけども。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 連携ということでございますけれど、基本的に新規就農者でありますとか、いろんな農業の相談事がやってくる場合がございます。そういう場合には、窓口といたしましては、日出町のほうがワンストップ窓口ということで、町のほうで一応最初にお受けをすることにしております。

その後、その相談内容によりまして、必要な人材、県の方でありますとか、農協でありますとか、そのほかいろんな金融の資金関係のところでありますとか、必要に応じまして、そういうところを町のほうで集めまして、相談者と含めまして、そういう相談をすると、そういうような連携をとっているところでございます。

そのほかにも、毎月1回、農協と町のほうで連絡会を設けるとか、あるいは県を含めてのいろんな会合を開くとか、そういうのをやっていると、そういう状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 先日、稲作部会のほうに総会に少し行ったんですけども、そのとき、3年前に行ったときは、多分四百数十名の方が部会に入っていたと思うんですけども、昨年ぐらいから農協に米を出さない人は一応外して、今64名ぐらいの方しかいないということで話を聞いてきたんですけども、そういう今までいた人をなかなか排除するんじゃなくて、こっちはこう入って、組織に入ってもらって産地化するとか、そういうほうにいかないといけないというふうに私は思うんですけど、そこら辺は農林課長としてどう思いますか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） おっしゃられるとおり、昨年の総会の際に、そのようになったように思っております。

農協関連の部会ですので、余りうちのほうでどうこうと言える立場ではないのかもしれませんが、個人的に言わせていただければ、やはり議員のおっしゃるとおり、もっと幅広く農協に出す方、出さない方もいらっしゃいます、それは、今販売につきましては自由化されております。

また、自給的農家ですね、もう自分のところで米を消費していくと、そういう農家もございますので、私の希望としては、やはり広く会員としておつき合いをしていくほうが望ましいのではないかと考えております。その辺につきましては、また農協や関係者等いらっしゃいますので、また御相談をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9 番。

○議員（9 番 工藤 健次君） 次の質問に関連してくるんですけど、次、生産者の所得向上対策ということで、午前中も同僚議員の中から出たと思うんですけど、その産地化、先ほど言ったように、米の稲作の件を見てみると、やはり総会に来ている人も、ほとんど高齢者の方ばかりでしたし、その規約の中を見ると、おいしいものをつくらないかんということで、そういう中に目的があります。

農作物は、やはり安全で安心でおいしいものでないと、なかなか普及していかないと思うんですけど、所得向上対策について、今、考え、また取り組んでいることを、もう一回御答弁をいただきたい。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 現在の農業で、儲かる農業、どうすればもうかるかと、これ一番の課題でありますし、難しい問題であります。

要するに、収入をふやし、経費をいかに減らすか、それにかかってくるわけでございますけれど、なかなか今いいものをつくっても高く売れるとは限らないと、そういう状況でありますし、経費につきましては、確実に上がっているとそういう状況であります。

そういう中で、やはり日出町として、どういう形で儲かる農業を目指すかといえ、やはり日出町の強みというのを生かしていくと、これが必要ではないかと考えております。

例えば養鶏農家とか養豚農家とか、大分県を代表するようなところは自分でどんどんやっていると、昔から日出町は少量多品目でやっているとございまして、いろんな直売所ありますとか、それから観光農園、そのほかいろんな形態の販売を行っている。やはり、そういうところをこれから先は少しでも生かしていくようなところに取り組んでいく必

要があるのではないかと考えております。

そのほかにも、やはり日出町の中心となるキュウリでありますとか、トマトでありますとか、ハウスミカンとかでありますとか、そういう日出町をこれまで牽引してきたそういう作物がございまして、そういうものにつきましては、引き続き、さらに高く売れるよう経費を抑えられるような方策、具体的に今どうこうちゅうのは難しいとありますが、少しでも消費者のニーズに合うような形で取り扱いをしていくと、そのようなところを観点にして取り組んでいきたいと、そのように考えております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、その次、企業参入の現状と今後の取り組みということで書いてるんですけど、今、現状を企業で町内で取り組んでいるところがあったら、どのぐらいの数で、その現状をお聞きます。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 濟いません。企業ということで、どの範囲を企業で捉えるかというのはいろいろあるわけですけど、現在、認定農業者で、先ほど80経営体というお話をしましたけど、そのうち11の経営体が法人組織として取り組んでいるところでございます。

そのほか、日出町では、小規模ではありますけど、シロネギでありますとか、シイタケでありますとか、その辺で他産業から建設業とか、その辺から参入していると、そういう状況が、ちょっと正確な数字申し上げられませんが、3例か4例はあると、そういう状況にございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 先ほどからテキサスの件が出てたんですけど、多分そういうところにも、今何ていうんですか、野菜とかを工場で作ったりとか、そういう企業もたくさん出てきてふえていってると思うんですけど、政策推進課長に企業、農業関係の会社とか、そういうあれは今のところなかったですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） テキサスの希望会社の件だというふうに理解しますが、現在そういう会社の申し込みは、現在あります。現状でございます。（「あります」と呼ぶ者あり）

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今、課長のほうからあるということでお聞きしたんですけども、多分そういう連携がいてないって思うんですけど、課長は御存じなかったですか、なかったですね。

で、町長、こういうところが多分問題じゃないかと思うんですけども、連携が、多分課をまたがるとか、そういうところをずっと私今まで4年間いろいろチェックをして話をしてきたんです

けども、そういう横の連携がなかなかうまくいってないんで、例えば、今言ったように課長はあると。で、肝心の農林課長のほうは知らない。やはり、そういう情報を共有していかないと、なかなか跡地の利用もスムーズにいかないと思うんですけど、町長、どういうふうにお考えですか。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） まだ知らないのが、私は当然とっておりますが、T I の関係、これはもう余り公表しておりませんし、一部のところで、あくまで申し込みがあった。現地見たというわけで、計画構想が出たというわけでもないんであります。野菜等のつくってみたいという会社が、希望があると、こういうことで御理解いただきたいと思えます。

日出町の中では、今一部で建設業の関係がシイタケをつくっておられたり、あるいはまた杵築でお茶をされている方が日出町でまたお茶園を5ヘクタールぐらいやろうとか、そういう企業の参入は、若干ではあります、大量ではないんで、私は非常に、今後とも連携を深めないといかんと思えますが、問題は各課ともお互いに今単独の業種関係というのは難しい。本当にいろいろな部にかかわりあいを持つというのは、議員言われるとおり、しっかり連携をとっていかなくやならんと思えます。

注意してまいりたいと思えますが、日出町の農業の中で、小規模であるとかいうのは、いろいろなお話がさっきから出ておりますが、日出町だけで農業をしっかりやっというところについて、非常に難しい、客観的行政が私はあるんじゃないかなと、そういうふうに経営規模が小さいであるとか、高齢化しているとか、そういうことでありますから、私は一番大きい課題は、町の中に農業関係の専門家、県は野菜、果樹とか畜産とか、いろいろな業種ごとに専門家が、今います。

しかし、日出町の場合は、なかなか農業をやっているから農業関係ということにはならんと思えます。やっぱり、専門職種でしっかり取り組んでいくと、こういうことが必要だと思えます。これは、常日頃、私も担当課に言っておりますが、そういうことを注意しながら、町の職員が率先垂範して、やっぱり農業の振興に当たれるような体制も同時に必要だと私は痛感しておりますので、きょうから、午前中からいろいろなお話を承っておりますので、今後とも努力させていただきたいと思えます。

○議長（熊谷 健作君） 9 番。

○議員（9 番 工藤 健次君） 日出の暘谷高校にも農業科があつて、そういう、今、農学の学校も少なくなってきた中で、日出の中にもあると。で、そういう環境もあるんで、ぜひ、この農業の問題については関係する課とか、そういうところは連携をとって、先ほど政策推進のほうにそういう話があつたということであれば、やはり農林課のほうに連絡をして、また現場を見に

いくというような状況になったときには、やはり農林課長も行って、やはりそういう話を聞いて、また、そこで決まらなくても、またそういう関係の会社が来ないとも限らないので、やはりいつもそういう連携を取り合っておかないと、片方だけで進んでいくと、結局なる話もならなかったり、そういうことにつながっていくと思うんで、ここら辺がずっと私は弱い部分があると思うんで、ぜひそこら辺をしっかりとやっていただきたいと思うんですけども。

この会議とか、そういうことは定期的に、これ農業問題だけではないんですけど、特にこの農業問題、今大変問題になっているんで、ここら辺をどういうふうに考えますか。副町長に、ちょっとお聞きをしたいんですけども。

○議長（熊谷 健作君） 副町長、今宮禮二君。

○副町長（今宮 禮二君） 大変貴重な御指摘をいただいたというふうに考えております。

農業の振興対策に基づいて、各課の連携が非常に希薄じゃないかという御指摘、大変私としまして耳の痛い御指摘でございまして、今後、慎重に、もう一つ掘り下げて、そういう各課の連携をつくりながら、農業問題だけではなくて、町政全般の推進に当たっていききたいというふうに考えております。大変貴重な御指摘ありがとうございました。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、課題のある農業について、深くはないんですけどもいろいろ質問してきました。今、最後に副町長が各課の連携をとってしっかりやっていくという答弁でしたので、各課連携をとって、しっかりこの農業問題、いろいろ多分難しい面がたくさんあるんですけど、環境を整えないと、なかなか新規就農も来る人もいないし、このまま放って、このまま行くわけにはいかない問題なんで、ぜひ産地化になるような品目とかそういうのもしっかりあれして、後継者が育つような環境をつくっていただきたいと思います。

それでは、もう一つ、次の質問に移ります。

次は、少子化対策についてです。この件も、大分県も子育て満足度日本一を目指しており、日出町もいろんな対策を行っていることと思います。少子化対策は、町にとっても何よりも優先すべき問題だと思います。各自治体の独自の取り組みが重要になってくると思いますが、少子化の現状と課題に対する考えを先にお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。原田秀正君

○福祉対策課長（原田 秀正君） 少子化対策についてという工藤健次議員の御質問でありますけども、私、福祉対策課のほうから子育て支援の面から見た、で答えをしたいと思います。

まず、出生数で見えますと、日出町の昨年の平成25年度が246人、24年度が237人、23年度が260人で、ここ数年240人から270人の間で増減を繰り返しておる状況であります。死亡数から出生数を引いた人口の自然減でありますけども、昨年は62人ということで、

年々増加傾向にあるということで、自然減がふえているという状況にあります。

また、日出町の合計特殊出生率を見ますと、平成20年度から24年の平均で1.55人ということで、人口の維持に必要な合計特殊出生率2.08を下回っておるという状況になっております。少子化は確実に進行しておりますが、その原因は晩婚化や未婚化が大きな要因と言われております。

少子化対策は最大の課題であり、長期的な展望に立って施策が必要であるというふうに考えております。国の抜本的な対策に加えまして、出産・子育て対策とあわせまして、地域の産業振興などによりまして、転出を食い止めていくことが課題ではなかろうかと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 先日、新聞でしたか報道でしたか見てたんですけども、国のほうは社会保障費のうちの70%が高齢者、あと子供向けは4%という多分数字が出てたと思うんですけど、うちの場合はどういう比率でなってますか。そこら辺、その点は。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 日出町の福祉対策課の予算、子育て支援、障がい、あわせましてですけども約20億円、福祉、障がい、生活弱者対策に約20億円の予算支出をしております。一般予算の九十何億のうちの20億円ということで、大変な大きな支出である、割合であるとは思っております。

○議長（熊谷 健作君） いや、答弁漏れやろ。割合、（「少子化は……」と呼ぶ者あり）割合ちゅうんで。

○議員（9番 工藤 健次君） 割合を聞いたんですけども。（発言する者あり）全体の数字なんですけど。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 子育て支援に関する割合ですか。（「比率はどのくらい」と呼ぶ者あり）ちょっと今、その割合については、ちょっと数字、今手元にないんで、また後でお教えしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、日出町だけで独自にしている取り組みは何かありますか。子育て支援。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 子育て支援につきましては、全国、県下、市町村どこも同じような施策をしているところでもありますけども、日出町独自というのは、なかなかこれとってというのはいないんでありますけども、今年度から任意予防接種の一部負担金を助成するようにいた

しましたし、昨年度は5歳児の相談会を実施するようにいたしまして、子育てするお母さん方の不安を少しでも解消しようということで、それが日出町独自といえば新規事業ということで、独自ということにはなりませんけども着手いたしました。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） けさもちょうどニュースで朝見たんですけど、ホームスタートってわかりますか、これはやってる、やってないですか、日出は入ってないところに入っているんですかね。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） ホームスタート事業は、なかなか実施主体が困難な状況でありますので、実施できるように努力はしておりますけども、ホームスタートまではいかないんですが、家庭に入ってちょっと手伝うと、そして、その会員の登録をしていただいて、そういう要望があれば家庭内に入って子育ての支援をするというのはしております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） たまたまけさ、ニュースで、ちょうどけさ見たんですけども、まだ8市がスタートを始めてない。きょうは、臼杵と何か佐伯市ですか、今年度から始めたというニュースが流れていたんですけども、ぜひ早く取り組んでいただきたいと思います。

それでは、その次の認定こども園、これも来年から、27年からですか、そういうあれになってくると思うんですけど、今、町の現状はどういうふうになっているか。また、取り組みはどうされてるかということをお聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 認定こども園の取り組みの状況でありますけども、現在、私立の聖武幼稚園さんが認定保育園に昨年度からなっております。

平成27年度から、子ども子育て支援法の本格施行に向けまして、町内の認可保育園に対しまして、認定こども園の移行を含めた新制度の説明会を今逐次やっているところであります。新制度のスムーズな移行につきまして、理解を深めていただいているところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） なかなか難しい問題と思うんですけども、これも、そういう私立だけではなくて、町内にある保育園、取り組むところが出てくると思うんですけども、その部分についての指導とか、そういう部分はしっかりやっていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 国の認定こども園化については国の方針でもありますし、県・町といったしましても認定こども園化については強く指導をしていきたいというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、その次の質問ですけれども、婚活の現状と今後の取り組みということでお聞きしますけれども、もう2年ぐらいになるんですかね、スタートして。で、この2年間の、簡単でいいんですけど、どういう推移でしているかということをお聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） それでは、当課のほうで婚活事業を行っておりますので、御回答をさせていただきたいと思っております。

平成24年度より日出町出会い応援事業を始めさせていただきました。まず、婚活の現状でございますが、これまで2年間でカップリングパーティーを8回、アルコール付きの交流会を1回開催をさせていただいております。

パーティーは、大分市にありますおおいた出会い応援センターと連携しながら、男女それぞれ16名が参加して行う食事付きのパーティーでございます。これまでの申し込み者数は、延べで471名、33組のカップルが成立しております。そのうち1組から結婚の報告をいただいております。

また、パーティーに開催前の時間を利用いたしまして、昨年度でございますが、男女1回ずつのミニ婚活のセミナーを開催させた経過がございます。

それから、昨年度初めて行いましたアルコール付きの交流会でございますが、男性34名、女性35名の69名が参加しまして、6組のカップルが成立したということでございます。

今後の取り組みについてでございますが、この事業を開始しました時点で、県内の自治体が行っております婚活事業は数市町村しかございませんでした。しかし、現在では、多くの自治体が行っている婚活事業をやっておりますし、また、民間団体も多くこの事業を行っているのが現状でございます。いかに日出町の独自の日出町らしい婚活事業を行うかということ、今内部で検討をさせていただいておりますし、より多くのカップルが成立するように努力をしていかないといけないというふうに思っております。イベントの内容についても、今後検討をしていきたいというふうに考えております。

今年度から、婚活支援事業、これを充実したいということで、2つほど考えております。一つは、民間企業やNPOや個人等が、民間の方が独自で行う婚活イベント、このイベントに対して開催経費を一部助成しようということでございます。

それから、もう一つは、仲人のような方々に結婚相談に乗ってもらい婚活支援制度、町内に居

住する方に仲人的な——婚活サポーター的なものですが、を登録してもらいまして、婚活に対する出会いを応援してもらう制度でございます。縁があって、最後まで、御結婚まで仲をとっていただければお礼を差し上げるというようなことも考えたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） その民間の団体って町内に幾つあるんですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） ただいま、昨年度から町内の事業所等におきまして、婚活の世話人という方を募集させていただいているところでございます。保育所、それから大きな事業所、それから金融機関等々が登録をさせていただいているところでございます。正確にはちょっと今あれなんですけど、約30団体ぐらいはあったというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今ちょっと何か質問が違うかった、回答が違うかったんじゃないですか。

民間のそういう婚活をしている団体の数を聞いたんですけど。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 町内で婚活事業を行っている団体というか企業が1社ほどあるというのは理解しているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 行政がやっていくのもあれなんですけども、1つある、その民間の、やはり団体をしっかりサポートしてやっていったらいかがかんと思うんですけども、行政がずっと2年間やってきて、なかなか結婚までまだ1組しかいってないんで、やはりもっと民間のそういうグループをもっとしっかりサポートする考えは、先ほど言ったけども、それ以上はないですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 企業のほうが行う婚活につきましては、かなり企業的な特色がある催し物等もやっているのが現状でございます。いかに行政が行う婚活がどこまでできるのか、そういう点もございますので、企業が行っている事業に支障を来さんように行政と婚活業もやっていきたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） きのうもちょっと知り合いの人に言われたんですけど、なかなか

PRが不足しているんじゃないかという話があったんですけども、「行政がそんなことしてるの
を知らなかった」と、こういう人もいますんですけど、そのPR不足の面についてはどういうふう
にお考えですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） PR不足という御指摘でございますが、ホームページ、それか
らフェイスブック、それから町報等にも記載をさせていただいているところでございますが、た
だいまの周知徹底ということについては、まだ不足分があるというように理解しておりますので、
その辺については、今後検討させていただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、そこをしっかりとやっていただきたいと思います。

その次、最後ですね、関係団体や関係各課との連携体制ということで、先ほどの農政のところ
でも出ましたけども、この部分についても政策推進だけじゃなくて、福祉対策課も関係する課が
2つも3つもあると思うんですけど、同じような質問になりますけど、ここをしっかりとやってい
かないと、なかなか大胆な工夫とか、そういうところが出てこないと思うんですけど、この点に
ついてどのようにお考えですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） まず、関係各課との連携についてお答えをさせていただきたい
と思います。

まず、少子化対策につながるというように思いますが、定住化の人口の増加策につきまして、
昨年度、関係各課が集まって協議をした経過がございます。

内容につきましては、安心安全な子育てをつくる環境づくり、それから企業誘致や大型商業施
設の誘致、それから道路網の整備、それから優良な宅地供給、それから教育に関すること等々の
定住人口増加策について協議をした経過がございます。

この協議の結果、今年度から政策推進課で行っております住宅の報奨金制度、それから子育て
世帯の移住報奨金制度、それから福祉対策課から、先ほどありましたけども、任意予防接種助成
事業等々が生まれたというふうに思っております。

今後とも、横の連携、これを築きながら、各種施策について検討してまいりたいというふう
には思っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、その各課の連携を、さっきも出たんですけども、しっ
かりとやっていただきたいんですけど、町長、どうもこのさっき言ったように、連携とかそうい
うところが本当弱いて、私はずっと感じているんですけど、ここをうまく機能させるには、ど

ういうふうにお考えですか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） まさに、今、仲人がなくなった時代であります。そしてまた、若い人たちも孤立しております。ですから、多くの皆さんに仲間に入っていただいております。町を挙げて、情報がなかなか個人情報でありますから、つかみにくい面があります。

また、個人情報を非常に乱用しても本人に御迷惑をかけてもいかんわけでありますから、十分気をつけながら、多くの人たちが結婚の機会のない人たちに結婚の機会を提供するということでは、やっぱり町民運動的にやっていかないといかんと思います。

したがって、多くのイベント、事業が町内で行われております。そういうのは、いろいろと、あるところは福祉対策課だとか、政策推進課というんじゃないで、いろんな事業の中に婚活事業も入れていくと。農業の面でも商工の面でも、あるいはいろんな団体があります。

ですから、そういうことをやっぱりお互いに連携、今言われるとおりに連携をしながら、なかなか今の若い人たちは表に出ていこうとしないというようなことがあったり、1回や2回で、ちょっと押してもなかなか動きそうにない。いろんな事情を考えると、挙げてひとつ皆さん方に協力していただいて、そういうことに関心を持っていただいて、1人でも、1組でも2組でも結びつけていって実績を重ねていくと。これが、一番私は重要だろうと思います。

ですから、婚活事業が、今政策推進課言いましたが、日出町の全事業の中で積極的に行うようにと、私は各課に言っておりますが、そういうことを連携を深めながら頑張ってもらいたいと思います。

問題は、1組ぐらいじゃどうもなりません。2年、3年かかってそういうことでは、かなり多くの人たちに、そういう機会があって、また幸せになっていただきたいという思いは、私ども皆同じであります。つい、いろんな会議でも、私がお世話しますよという方はたくさんいるんで、一日も早く委嘱状等差し上げて活躍できるような体制に持っていきたいと思います。よろしくお願いたします。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、最後に町長の答弁を聞いたんで、これから先、しっかりやっていただきたいと思います。

最初に言ったように、やはり子供、今、推移は余り変わらないんですけど、亡くなる方がふえてくると、だんだん人口も、午前中からも出てましたけども、3万人にいくには、なかなか厳しくなってくるんで、雇用環境とか、それから子育ての環境とか、そういう環境の整備をしていかないと、なかなか住みよい町にはならないと思うんですけども。

それから、また協働支援も出したし、協働のまちづくりなんで、できるだけ町民の方と協働で、

しっかり3万人を目指してやっていただきたいと思います。

これで、私の質問を終わります。

○議長（熊谷 健作君） 6番、岩尾幸六君。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 6番、岩尾です。私も今回初めての一般質問となります。非常に緊張しておりますが、御回答よろしくお願いたします。

通告に従いまして、3点ほど質問を行います。

まず最初は、本日の冒頭にありました岡山議員も質問で挙げましたけども、防災組織の問題についてお聞きいたします。

私どもの年代になりますと、阪神大震災、それから2011年3月に起きた東日本大震災は記憶に新しいところであります。それから、東日本大震災では、地震と津波の被害で1万8,700名という多くの方々が犠牲になりました。このことに関しましては、3年たった現在も報道等を通して忘れることなく耳にするところがございます。今後30年以内に60%の割合で発生すると言われている南海トラフ地震の対応について、何点か質問を行いたいと思います。

まず最初の質問ですが、今後発生すると言われる南海トラフ地震で、我々日出町が受ける被害はどれくらいを想定しているかお聞きいたします。

次の質問からは、質問席から行います。よろしくお願いたします。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長、村井栄一君。

○総務課長（村井 栄一君） 岩尾議員の御質問にお答えします。

南海トラフ巨大地震が発生した際の日出町における被害想定ですが、平成24年度に大分県が行った地震津波被害想定調査によりますと、地震発生から1時間48分後に最大5.01メートルの津波が押し寄せ、人的被害は、一番被害の大きい冬の朝の5時で計算した場合、死者数が172人、重傷者が104人、中傷者が202人と想定されております。

建物被害の想定は、全壊・焼失は386棟、半壊が664棟、床上浸水が424棟、床下浸水が149棟となっております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 今、家屋と犠牲者数とありましたけども、橋や道路の崩壊のほうに関しましては、何か情報はありますか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 大変申しわけないんですが、橋や道路の想定は、今、数字はちょっとお持ちしてないんで、また後で御報告したいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） ただいま課長から説明がありましたように、やっぱり南海トラフ大地震が来られますと、地震震度それから津波で我が町も大きな多大なる損害が発生するというふうにも想定されています。

これらの被害を最小限に抑えるための役割が行政の役割だと、私自身は思っております。この災害が万が一発生した場合、復旧に対してどれくらいの費用がかかるというふうに試算をしておりますか。お聞き願います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 災害が発生した時点の復旧の費用ですが、その部分につきましても大変申しわけないんですが、その分につきましても今現在数字を持っておりませんので、後で調べて報告したいと思います。済いません。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 済いません、それでは、この辺、ただいまの質問に関しても後日、返答をお願いしたいと思います。

先ほど、津波が108分後に5.1メートル発生するということですね。その間に死者が172名と言われましたけども、やっぱり湾岸部が中心になるかと思います。この湾岸部にでも、どの辺の地域が一番被害が想定が大きいのか、この辺を想定があればお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） お答えします。

湾岸部といいますと、町内で防災マップを配布しておりますが、湾岸部、豊岡のロイヤルから下がずっと浸水域が入っております。被害の大きいところは、先ほど岡山議員さんの中でも報告しましたが、25地区が浸水域になっております。その部分がほとんど被害になっておりますが、地震につきましましては、内陸部等のがけ崩れ等も入ってきますので、若干その部分は変わってくると思いますが、浸水域で被害が大きい部分につきましましては、湾岸部25地区の湾岸に面してる各自治区の被害が大きいのではなかろうかと考えているところであります。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） この湾岸部25地区ですね、先ほど防災無線設置が25基というふうに、岡山議員のときの報告にもありましたけども、それとこの25というのは一致してますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 今現在に25基設定してるんですが、最終的に41基計画をしておりますが、湾岸部の区域から、今順次やっておりますので、今現在終わっているところは、湾岸

部はもうほとんど終わってる状況であります。今、あと内部に17基、今年度を含めてやっていくようにしておりますので、湾岸部は率先して優先順位が高いので、そちらから整備をしている状況であります。

25地区は、ほとんど今の中で、全てじゃないですけど、湾岸部を優先しながら放送灯をつくっておるとい状況であります。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） そういうことで、やっぱり湾岸部、一番津波の危険もあるとかと思いますので、防災無線の設置は、やっぱり優先が高いと私どもも思っております。

ちなみに、今後のこの防砂無線の設置状況、どのように今後活用していくか、この辺をお聞きしたいんですが。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 防災無線につきましては、25年度まで25基、1億ほどかけてやってきたんですが、役場を中心に、災害が起こった段階で、国の自動警報装置が入った段階で防災無線に連動しながら各地区にお知らせすると、あと地区でも防災無線を地区のほうで、そこだけ起こった段階で、そこだけの放送もできますので、そういう部分も活用しながら、いろんな使い方がありますので、その部分はいろんな部分でまた自治区、大変あれなんですけど、防災士さんとか自治区長さん方をお願いしながら、防災無線の取り扱い説明をしながら、地区のほうのいろんな、例えば防災訓練の中でも使っていただきたいし、いろんな連携した防災訓練の中でもそういう部分を使って行って、単に設置だけじゃなくて、今、うちのほうもいろんな情報等をその防災無線の中で流しております。お昼と5時の防災無線の点検を含めて音楽も流しておりますし、選挙とか、あといろんな行事があれば、その中で流しておりますので、自治区の中でそういう行事等があれば、ぜひ、いつもその防災無線を使っていただきながら、防災無線を有効活用していただきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） ただいま無線の活用に関しては、地区でもいろんな行事に使っていただきたいと言われてましたけども、やはりその辺の情報を知らない地区もあるかと思うんです。この辺の説明も、今後、各地区の防災関係者に広めていただきたいというふうに思います。

それから、一番最初に、やっぱり私の耳にしたのが、今2回、12時と5時に試作のために、今、音楽が鳴っているんですけども、余りにも設置した近隣の方が非常に迷惑を受けているということが一つですね。

それから、ことし3月14日に震度4の地震がございましたけども、あのときも緊急無線が入

りました。その無線の解析、声が割れて全然聞こえないという声もありましたので、その辺、どのように今後変えていくか、もし計画があればお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 確かに、防災無線でうちのほうが設置した段階で、結構苦情とかも来ているところがあります。夜勤等で帰って寝ているときに、例えば選挙広報とか、あとサイレン、チャイムが鳴ったりして寝られないとか、住宅の近くの方は、そういうあれがあるんですが、そのときは、そういうところが出たところに関しては、またスピーカーの方向を若干変えたりとか、そういう方向を、今、検討しているところであります。

そして、この前、国東沖で震度4の地震があった段階については、防災無線の一斉警報が鳴ったんですが、確かに音が割れてとか、夜中でいろんな部分があって、そういう放送、今、不具合等が出ている分については、委託して調整をずっとやっておりますので、電波の状況が天候によったら、かなりこの電波の状況が乱れたりして鳴らないときがあったりするわけです。

本器を役場のほうに設置してございまして、そこから一斉に流すようにしているんですが、なかなか気象状況とか、いろんな部分によって、きょうは鳴らなかったというのを地元から連絡を受けたときに、うちは、もうすぐ業者のほうにお願いして、調整行ってもらってやっておりますので、本番のときにこういうことがあると一番困りますので、音楽とか流しながら、テスト放送とかしながら、その部分で調整をやっているところですが、全て災害時に鳴るのが当たり前のことなんです。その部分で、先ほど言われるように苦情等が入っている部分につきましては、何とかうちのほうが御理解をお願いしている状況であります。何とか、その防災無線の近くの方は、いろんなやかましい音がするという事で苦情が入るんですが、その辺は御理解をお願いしながら順次設置してございまして、御協力をお願いしたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 我が町日出町は幸いにして、ゲリラ豪雨とか台風災害も少ないです。だから、被害に対する、やっぱり認識というのは、町民の皆さん、少し低いのではなかろうかなと。やはり、この防災無線、この辺を通じて、いかに災害の恐ろしさ、そういうときの敏速な行動をどのようにとればいいのか、やっぱりこれは、今後、行政として進めていっていただきたいというふうに感じております。やっぱり防災組織というものを立ち上げられて動いているんですけども、その中で、やはり訓練、こういうところが重要になってくると思っております。

ただいま日出町では、防災士をかなりふやしていくと。で、現在125名ですか、いらして、ことしに60名ほど育成していくというふうに、冒頭の岡山議員のところでもありましたけども、じゃ、日出町全体で、これ適正な防災士というのは何名ぐらいが必要なのか、何名を設定してや

っていくのかというところをお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 先ほど、岡山議員の回答の中で125人ということで、本年度60人程度を予定しているということで御回答を申し上げたんですが、防災士は何人が適切であるかというのは、うちのほうは、5人がおれば5人が一番いいんでしょう、3人がいいのかって、その辺はしてないんですが、せめて、最低一つの行政区には最低1人の防災士をお願いしたいということでやっております。

多い地区については、3人、4人いらっしゃる場所もありますし、現在、町内で一人も防災士がいない地区が13地区ございます。今年度60人計画している中につきましては、ぜひその13地区の中から、区長さんでも結構ですし、地域の後継者の方でも結構ですし、何とかその13地区の中に防災士を育成して、全地区に張りつけて、防災士がいるから大丈夫だということはないんですが、防災士さんをつけて自治区の避難訓練とか、自治区の防災意識の高揚を図っていきたいと思っておりますので、自治区に何人おればいいというのは、もちろん、今そこまでは考えてないんですが、できるだけ多くの方を町内で防災士を育成しながら、防災士さんだけではなかなか自治区の訓練等もうまくいきませんので、当然区長さんが、区にはトップの区長さんがいらっしゃいます、町のほうから委嘱している区長さんがおりますので、区長さんを中心に防災士さんと協力しながら、防災活動に取り組んでもらいたいと思っております。

確かに議員さんの言われるように、日出町は災害が少ない町でありまして、北部豪雨の中に、起きました中でも日出町はほとんど災害が起こっていない状況であります。その中で、町民の方がかなり防災意識が、要するに他町村に比べて低かったのは確かだと思います。行政自体もなかなか災害には手をあはしてたところがあったんですが、3・11を契機に町としても防災無線の多くのお金をかけてやっているところでもありますし、最終的に防災無線ができ上がれば2億弱ぐらいの予算を打ち込んで、防災に力を入れているところでもありますので、今後、防災士の育成とか、地区の自主防災組織を活性化しながら防災訓練等をして、住民の防災意識の高揚を図っていきたいと考えているところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 防災士、やっぱり地区で最低1名というふうにおっしゃられてましたけども、やはり地区で1名だったら77名ぐらいでいいんですね。ですけども、やっぱり大きな地区、いろんなところがありますので、やっぱり3名なり4名なり、そうすると、今現在125名いらっしゃいますので、割りますと1.2名近くの方が各地区にいることになります。

それで、やっぱりことし、またさらに60名、来年また何十名ということであると、結構予算

がかかると思うんです。これが町のほうが助成して受けさせるんです。やはりある程度目標を持って細かな、例えば、私は内野出身なんですけども、内野みたいに多いところで最低何名とか、それで計算して、ある程度防災士の数もコントロールしていけばいいんじゃないかなというふうに思っています。

それから、防災士の皆さん方の権限の譲渡ですね。どれくらい今後メインで、地区で活動していただけないといけないと思うんですけれども、どれくらいの権限を与えているか、この辺をお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 防災士に権限というのは、うちのは町のほうでは防災士の権限というのは、もう一切しておりません。

防災士につきましては、任意団体で町のほうが音頭をとって、防災士さんの自主組織であります日出町防災士会というのを立ち上げましたが、町として、防災士にこういう権限を渡すという、そういうのはありませんし、防災士さんのうちからのお願いについては、各地区で防災訓練等防災の意識高揚を図ってもらうのと、区長さんと連携をとりながら自分とこの、当然共助ですが、自分とこの区の災害に対しては自分なんかが、例えば避難路とか避難所とか、そういうところの指導をしていただきたいということでしておりますので、町として防災士さんにいろんな権限というのは渡しておりませんので、その辺はよろしくお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） ただいまの質問の中で、やっぱり防災士会が立ち上がって、それと地区のですね。地区に関しましては、自主防災組織というのが、やっぱり今後の避難訓練とかいうところで活躍するというふうに思ってますけども、その辺の自主防災組織と、まず行政ですね、自主防災組織の役割と行政のかかわりというのがどういうふうになっているか、御説明願いたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 自主防災組織は、町内77自治区に全てつくっていただいておりますが、残念ながら組織はつくったものの、なかなか形だけ、当然、会長さんは区長さんがなられて、あと各班については、班長さんが名前を入れられてやっているとありますし、中には、例えば海岸線の中で夜間避難訓練したり、いろんな部分でやっているところもありますし、かなり温度差があるわけですが、町といたしましても自主防災組織にいろんな防災用品の購入等に関して、町の助成金制度もつくっておりますし、その中でぜひとも自主防災組織の活性化を図っていただきたいということで、その一環が防災士さんになろうかと思うんですが、防災士さんが自主防災組織の中に入って、防災アドバイザー的なことをやっていただいて、自主防災組織の活

性化と、あと地元の防災の意識の高揚に図っていただきたいと想っているところでもあります。

行政のかかわりといたしましても、行政のほうから、例えば自治区のほうで、そういう防災の勉強会とか研修会をしたということであれば、うちのほうから、ぜひ積極的に講師を派遣したり、そういうことをやっていきたいと想っております。ぜひ、そういう部分に区長さん方をお願いしながらやっているところではありますが、なかなか今現在、先ほども言いましたが、熱の高いところと低いとこでかなり温度差がありまして、頑張ってもらいたいと想っているところでもあります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 私も自主防災の組織が避難訓練とか、詳しく徹底してやるのが一番いいと想っております。

ただし、この防災に関しての避難訓練とか救助訓練とかいうやつは、本当に生かさななきゃいけないんですね。そういうふうには、各企業も年に最低1回は訓練という形でやっております。で、ああいう東北沖地震みたいに、ああいう大きな地震があるときに、本当に年一回の対策で、本当に住民の皆さん、それから役場の関係の方も防災訓練をやるようになってるんですけども、年1回で、それが果たして身につくだろうかということなんです。だから、この辺の頻度も、やっぱり町政が少しかわりを持っていただいて、やはり2度なり3度なり、年二、三回はやるような指導をしていただきたいというように想っております。

もう一つは、やはり訓練の積み重ねと、先ほども私申しましたように、大事だと思っております。東北沖大地震の震災後に、どこの保育園だったか幼稚園だったか、ちょっとはつきり覚えてないんですけども、毎日毎日避難訓練を行って、小さい子供が、本当に有事の際に、自分の体でしみついて、で、自分自身で、やっぱり小さい子供でも避難できるというふうな活動をしている園も報道されました。

日出町で、この保育園とか幼稚園、小学校、中学校もそうなんですけども、そういう避難訓練に対する指導というふうなのは、どのように行っているかお聞きしたいんですけども。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 避難訓練に対する指導、御指摘なんですけども、町といたしましても訓練等、今、ことし、去年ぐらいから湾岸部にかけてやっているんですけども、中には避難訓練以外の団地等も炊き出し訓練とかをやっている状況がありますし、その中で町として協力とか指導できる分については協力しながら、当然、消防団とか警察署、消防署、御協力を得ながらやっていっておりますので、なかなか子供段階の避難訓練までは今のところいってない、自治区の中で訓練した中にお子さんが参加されて逃げてるといのは状況はありますが、その部分につきましては、なかなか浸透がいま一ついってないのではなかろうかと想っております。

東北の震災の中で、うちと今現在交流しております亘理町の町長さんが見えられたときにも、やっぱり日ごろからの避難訓練が一番大事であるというような御講話もさせていただいておりますし、皆さんの町民の意識の中に、まず逃げるというそういう意識づけが一番大事じゃなかろうかと思っておりますので、うちのほうも訓練の中で何が何でも最初に逃げることを皆さんに植えつけるというんですか、そういうことを意識を持っていただいて避難訓練等の指導をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） やはり、いつ発生するかわからないちゅうことで、30年後までに60%の発生ということなんです。一番大事なのは、今幼稚園だとか、小学生ぐらい。やっぱり30年後にしますと、もう40歳前後が一番働き盛りなんですね。その方々が毎日訓練することによって、体に身につけているやつを、今度自分の子供、おじいちゃん、おばあちゃんたち、そういうところに広げていくことができると思いますので、ぜひ、その辺の検討をしていただきたいなというふうに思っております。

それから、4番、5番、一時避難場所だとか避難食の備蓄に関しましては、冒頭説明がありましたので省きたいというふうに思っております。

それから6番目です。家具の転倒防止についてお伺いいたします。

やはり、地震が発生しますと震度5強ですね、日出町の予想が。それぐらいしますと、やはり家具というのが転倒して、それによって下敷きになって亡くなられる方、これは阪神淡路大震災で8,700名の方が亡くなられていると言われたんですけども、やっぱりそれぐらいの規模での地震が発生しますと家具の転倒というのが予想されます。

それで、各家庭で家具の転倒防止を実施しなさいということになりますと、やはり予算的とか、高齢者に関しましては体力的に無理なところが発生すると思います。で、町でどれくらいの助成金なりの確保があるのかどうか。どのようにやっていくのか、その辺をお聞きしたいんですけども。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 家具の転倒防止対策であります。家具の転倒防止をする補助用具の設置につきましては、地震発生後の早期避難に関してとても有効であると考えておるところであります。

本年から、県の地震津波対策推進事業の補助メニューの中に高齢者早期避難支援事業として、ひとり暮らしの高齢者等の住宅に設置する家具の転倒防止補助用具の購入に対する補助が開始されました。

この事業は、家具の転倒防止補助用具の購入及び設置をシルバー人材センターなどに委託して行い、その費用の3分の1が県、3分の1が町、個人は3分の1負担で済む事業であります。日出町も、今回当初予算のほうで間に合いませんでしたので、早ければ9月補正のほうでこの事業を取り組んでいきたいと考えているところであります。

先日、発足しました防災士会にも委託を考えているところでありますが、なかなか高齢者の方で自分でつけるというのは難しいので、シルバー人材センターとか、こういう防災士会とか、例えば自治区の区長さん方と協議しながら、そういうできない方については、そういう組織を使いながら転倒防止策の助成事業を取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 助成のほうに関しては、やっぱり独居老人だとか高齢者の家庭でやっていかれると、いくというのでよろしいですか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 65歳以上の高齢者の世帯ですね、ひとり暮らしもありますが、65歳以上の高齢者世帯ということで、若い方と同居されているところはちょっとあれなんですけど、一応65歳以上の高齢者世帯ということで県の事業メニューに入っておりますんで、その部分をやっていきながらしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 65歳以上の高齢者の家庭ということで、そういう助成が適用できると、今後計画していくということなんですけども、この期間というのは、例えば来年の1年か、それとも3年か、永久的にやっていくのか、この辺をお聞きしたいんですけども。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 今現在、県の事業が今年度から始まりましたので、この県の事業にあわせてやっていきたいと思っておりますが、県の事業が終った段階で行きついてない家庭、希望等がたくさんあれば、町も今後のどうするかというのは前向きには考えないといけないと思っております。県の事業がなくなったから、一遍にやめてしまうちゅう話にはなかなか難しいので、できるだけ多くの方に手を挙げていただいて、県の事業に乗って、早目にやっていきたいと思ひますが、漏れた方については町の単独事業で考えていかないと悪いかなというふうには考えているところであります。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 県の事業のほうで様子見ということなんですけども、やっぱりこれ県の事業で何年もずっと続いて継続できることはないと思いますので、やっぱり早目にできる日出町の大体家庭を早目にできるような施策をとっていただきたいというのと、きょう町長が、先ほど川崎内野地区で八十何戸のリゾート、それからもう一カ所で31戸、豊岡のほうでも40カ所ぐらい、というのは、やっぱり宅地造成が進められているということで、やっぱり新築家屋に関してもある程度の新築時の許可の中で、法令的には無理だと思いますけども、施工主にこういうふうな協力をお願いしたいというふうな希望を出せるでしょうかというところの単純な質問なんですけども。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 新築住宅に関するあれなんですけど、今現在、若い方については、できれば自分のほうでお願いしたいと思います。高齢者の所得の少ない方について、こういう事業を今計画しておりますので、なかなか新築のところそういう事業をというの、今のところ難しいんではなかろうかと考えております。できるだけ高齢者の方には、全て行き渡るようにしたいと思いますが、新築までには、なかなか今ちょっとその辺はまだ検討していないんで、今すぐ回答は差し控えたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） これ、新築家庭の方もやっぱり30年たてば、30代の方が60になるんです。ですから、新築のときに、これお願いベースで、やっぱり家具の固定というのはやっていただけないですかというお願いベースでも何かこう新築基準の中に一言文言を入れていただくと、今後も町内全体に耐震対策が広まると思いますので、ぜひ検討していただきたいように思っております。

じゃ、防災計画の最後の質問になりますけども、特に防災計画の日出町の計画の中に災害に強い道路網の整備を計画的に推進すると掲げています。

先ほど、道路網のことも出て、17本の道路整備を計画していると町長のほうから説明がありましたけども、それ以外に、新規にこの災害に向けて道路の作成という計画があるかどうかお聞きしたいんですが。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 地域防災計画の中に災害に強い道路網ということで挙げておるんですが、現在、防災担当課の整備といたしまして、昨年度より地域の避難路の整備をしております。

現在2カ所ほどと、あと街灯の整備とかを3カ所やっているところですが、これも補助事業の中でこういう使えるメニューがありますので、ぜひとも地域の中で避難路の拡幅とか、例えば階段等の設置や手すりの設置とか、そういう部分を全部できますので、各自治区の、先ほど当然あ

りますが、25地区の湾岸部の地区については、こういう計画をつくった段階で補助等がもらえますので、ぜひともうちのほうはそういう部分を積極的に推進して行って、避難路とか、避難路にかわるような部分を整備していきたいと思っております。防災の避難路については、こういうあれで計画しているところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） やはり道路をすぐつくと。やっぱりこれは、いつ来るかわからない地震に対しても、やっぱりなかなか予算組めないと思うわけですね。ですけども、やはり東北の地震の事例でもありますように、車が渋滞してしまった、もう動かなくなった、そこに津波が来て亡くなっているケースも多々あるわけなんです。

来年、再来年で設置をしていただきたいというような要望じゃないんですけども、今後の計画の中に、やっぱり沿岸部の低い地域、特に標高が5メートル未満、5メートル近くのところに関しては、新規な道路計画、そういうところを入れていただきたいというように思っております。

住民が安心して暮らせる、津波が来たら私のところ低いんで、これは流されるんじゃないかと、こういう不安が町内の在住3万人を目指すとか言っても、いや高いところに引っ越そうか、別府に引っ越そうかとか、杵築に変わろうかとかいうところまであって、町内の人口も減る可能性の一部にもなっているわけです。やっぱりその辺、将来に向かって、今住んでいる町民が安心して暮らせるまちづくりというところを目指して頑張りたいというように思います。

以上で、防災計画の質問を終わらせていただきまして、次に、町営住宅について質問いたします。

町内には幾つかの町営住宅がございまして、現在、私が調べているのに关しましては6カ所あります。各住宅の個数と入居数、どれくらいなのか報告願いたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長、村岡政廣君。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 岩尾議員の御質問にお答えいたします。

各住宅の戸数と入居数についてですが、古い住宅順に、大神市の原住宅2戸、青津山住宅103戸、藤原住宅53戸、豊岡住宅48戸、仁王住宅72戸、辻間住宅9戸、計6団地287戸を管理しております。

以上です。（「入居数です」と呼ぶ者あり）

申しわけありません。4月1日現在入居数ですが、青津山住宅36戸、藤原住宅7戸及び仁王住宅1戸の空き家となっております。差し引きしますと、今現在の市の原は2戸、青津山住宅67戸、藤原住宅46戸、豊岡住宅48戸、仁王住宅71戸、辻間住宅9戸入居しております。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 今御説明ありました、やっぱり空き数が多い青津山が36、それから藤原住宅が7ということで、大体3割近くが入居されていない計算になりますね。この空きが多い青津山とか藤原住宅に関しては、平成17年以降入居を停止しているということなんですが、その理由をお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 対応年数の古い住宅への入居を平成17年より停止しております。この理由につきましては、青津山住宅は昭和42年から48年に建設された長屋形式の平屋建て及び2階建ての住宅です。建築後、既に40年以上経過しています。23棟103戸のうち、平屋建ての19棟78戸については、床や壁の老朽化が著しく、入居の際には修繕等がかなりかかるため、退去後については募集を停止しております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 今、青津山住宅のみだったんですが、藤原住宅も一緒ですか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 藤原住宅につきましては、入居を停止しているわけではないんですが、やはり場所的に、かなり藤原のちょっと離れたところ、交通の便が悪いということで、今現在7戸空いております。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 青津山住宅に関してですけども、結構もう40年以上もたって老朽化しているということで、建てかえ計画というのはございますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 町営住宅の建てかえ計画についてなんですが、築40年以上を経過している青津山住宅、または築35年以上を経過している藤原住宅については、設備が古く、また建物の老朽化が進んでいますので、建てかえをすることが望ましいとは考えております。

しかしながら、建てかえ後の家賃の上昇による現入居者の負担増や町内の民間住宅との戸数の供給バランス、あるいは高齢者や身障者にどう対応していくなどの諸問題がありますので、建てかえの際はかなりの事業費が必要となります。今後の計画については慎重に進めたいというふうに思っております。

なお、豊岡、仁王、辻間の住宅については鉄筋コンクリートなので、今後も維持補修をしながら管理していく予定にしております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 今、建てかえすると家賃の上昇につながりかねないということをおっしゃられましたけども、小学校ですね、各耐震の設備で対策をきちっとやりました。やっぱり住宅に関しては、建てかえというのが一番手っ取り早いかなと。それか、もしくは耐震診断を行って、耐震対策をやるのがいいのかなということを考えますけども、まず一つ、耐震診断とか、耐震対策の計画がございますか。お聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 今現在、鉄筋コンクリート住宅の豊岡、仁王、それから辻間につきましては、昭和鉄筋コンクリートですので、一応、今現在私どもの検討した結果では耐震で大丈夫だというふうに考えておりますが、木造住宅である青津山と藤原、市の原については、今現在耐震の調査等は行っておりませんので、はっきりとした答えが出てない状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 今後は、この藤原、それから青津山に関しては耐震対策をやるという計画はございますか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 今現在、先ほど言いましたように、かなり老朽化が進んでますので、私どもといたしましては、今後建てかえにさせたいというふうに考えておりますんで、今現在この築40年以上の住宅について耐震化の予定は、今のところ計画しておりません。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 先ほど私も言いましたけども、やっぱり耐震対策よりも新築のほうがしっかりして、なってくると思いますが、先ほどもちょろっと言いましたけども、やはり町営住宅に入っている方、日出町の町営住宅の設置及び管理に関する条例というのがございまして、条例の2ですね、安全で衛生で美観を考慮しつつ、かつ入居者にとって便利で快適なものになるように整理することちゅうことで、ちゃんと書かれておるわけです。だけど、耐震対策がやられていない。こういうところだったら安心して住めるところじゃないと思うんです。やっぱり、いつ来るかわからない地震でつぶれるんじゃないかという不安を抱えながら生活している方が多いと思います。

ですので、やはり日出町が町営住宅だったら大家と思いますね。大家としての住居の安全配慮と義務に関しては必要じゃないかと思います。この辺は、どのようにお考えでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） そのとおりでございます。私どもも今後、町営住宅の木造については、木造部分、青津山住宅の部分については、今後も大変難しい問題ではあると思うんです

が、建てかえの計画を立てていかなければいけないというように、今思っております。

当然、耐震につきましても検討しなきゃいけないんですが、今現在、木造の築40年、この建物について、耐震診断をして耐震補修する。それよりも、入居者の問題等があると思いますが、今後は建てかえに向けての計画が必要だというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 岩尾議員の御質問で、私も青津山住宅地の皆さん方に懇談会に2回または3回ぐらいお伺いしております。そういうときに、皆さん方との懇談の中で、やっばこの問題が出てまいりました。環境をもう少しきれいにするというようなこと、あるいは排水をよくするとか、環境面をよくするか、そういう中で、以外に皆さん方が今非常に安い入居料でなっております。もう古いからですね。

そういうことになって、建てかえ問題も起こったんでありますが、ほとんど新しく建てたら、今の10倍や、もっと何倍も高い入居料金になる。これは全国、あるいは大分市の空港の前の大空団地、そんなところを見ても、全て出ていった後、新しい人が入ってくると。こういうことのサイクルになるのではないかなど。

そういうことで、私の印象では、懇談会のときに、必ずしも建てかえろという意見が多くはございませんでした。できるだけ長くおらしてくれと、こういう意見が多かったように思います。

しかし、今課長がお答えしたように、平成17年か18年、行革の中でこの青津山住宅団地については老朽化して危険であると。したがって、2階部分はあったり、階段の問題があったり、トイレの問題、台所、いろいろと非常に老朽化していると。そういうようなことから、できるだけ空いたところについては、もう入居をしないようにしようという方向を決めております。そういう一つの判断の中に、今、空きがございます。できたら、あそこで一定の区間が空くこととなるのかなというふうに思っておりましたが、必ずしもまばらであります、全部。非常に集合して、そこにばらばら入っているという横で皆使っていると、こういう状況があったりするんで、今の段階で、場所として町営住宅を考える場合に、どこが適地かといったときに、青津山は一つの適地だろうと思います、駅等の距離からしてですね。そういう判断があるんでありますが、新たに公営住宅の入居層というのは、結婚前とか結婚して子供育て中の所得の一定の限度の人たち、そういういろんな条件が、新たな自分で住宅を建てる前の必要な方々がたくさんいらっしゃいます。対象者と、今の入っておられる方々とどういうふうに考えていくか、こういうことが大変重要でございます。

非常に曖昧なお答えであります。しっかり内々には検討しておるんでありますが、なかなかどうしようという方向に決まっておられません。今回、こういう御質問が出ておりますので、もう

ちょっと真剣に内部で検討させていただきたいと思います。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） やはり、ここ辺は非常に難しい問題だと思います。住んでいる方と、やはり新築した場合の、また予算の関係だとかいうところありますので、今後もしきりめずに検討していただきたいと思いますというふうに思っております。

一つ、先ほど入居のところ所得制限があると言われましたけども、所得制限を、まずどれくらいあるのか教えていただきたいというのですね。

ただ、1年間働いていったときに、その所得制限をオーバーした場合、どういう措置を通常されているのか、この辺もお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） お答えいたします。

入居希望の方の所得制限についてですが、入居者の各種控除後の合算所得が年間189万6千円以下となっております。

先ほど、これをオーバーしたらどうなるのかといいますと、これをオーバーしますと、次の年の所得控除のときにオーバーした分だけが入居料が高くなるという状況になります。これも計算式がございます。それについては、また資料として出すこともできますが、よろしいでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） あと、その入居料の計算、再計算、また後でいただきたいと思えます。

では、もう結論から言いますと、やはり町営住宅に入居された場合、所得を上回った場合は、やっぱり住宅家賃を高く払えば何年でもいれるという感じですか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 余りにも所得が高くなりますと、当然町営住宅には入れませんので、退去命令を出すようになると思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 理解できました。ありがとうございます。

最後に、やっぱり町営住宅ですね、安全で衛生で美観を配慮しつつというところもきちっとたってますので、この辺、豊岡、仁王、それから辻間の住宅に関しても今後古くなる傾向にありますので、この辺をしっかりと維持管理していただきたいと思います。

最後になりましたが、日本テキサスインスツルメンツの関係に関しまして、若干佐藤議員、そ

れから金元議員の質問とかぶるところがございます。かぶらないところだけ二、三質問させていただきたいと思います。

冒頭、テキサスの跡地利用に関しましては、9社の企業が、今のところ声を上げているようにお聞きしました。その場合、企業誘致するという場合に関しまして、やはり工場が全部埋まった場合、どれくらいの雇用が町内から発生するのか、大体試算が立てているかどうかお聞きしたいんですが。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 今現在、先ほど申し上げましたように、9団体、企業等が希望をしておりますけども、実際、どのくらいのスペースを確保したいとか、具体的な貸し付けの条件等は、そういう段階まで至っておりませんので、今の段階では、どのくらいの雇用が生まれるかというのは、企業の事業内容によって変わってくると思いますので、そこまでは計画をいたしておりません。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 今現在では、雇用の数は不明ということでわかりました。

ことしの5月1日に契約を結ばれてやっているとことなんですが、譲渡にわたってテキサスから1億1,200万円相当の寄附というんですか、管理費というのをいただいたということをお聞きしておりますけども、その費用ですね、1億1,200万円の使い道を、どういうふうに使っているのかお聞きしたいんですが。

○議長（熊谷 健作君） 財政課長、川野敏治君。

○財政課長（川野 敏治君） ただいま申し上げましたように、日本テキサスインスツルメンツ社から5月1日付で1億1,200万円の寄附がございました。我々執行部といたしましては、これを管理費と位置づけているわけではございませんが、当面は寄附として基金に一度受け入れて、工場跡地関連の必要費用として支出していきたいと考えております。

維持管理は、先ほどの御質問にもありましたが、7月末まで半導体の製造機器の搬出作業がまだ残っております。8月から日出町が全て管理していくようになるようになると思います。そういうことで、今議会に補正予算として5,790万円の予算を計上いたしておるところでございます。

また、来年度以降、平成27年度以降、概算の試算ではございますが、1年間に約1,900万円程度の維持管理費が必要になるんじゃないかなとは思っております。これの内訳につきましては、人件費、それから電気料、警備費、草刈り等の費用、それから借地料、そういうものでございます。

これから利活用について決定するまでの間、しばらく財政課のほうで維持管理を行って行って、利活用が決定すればすぐに対応できる準備や組織化を行っていきたいと考えているところがございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 6番。

○議員（6番 岩尾 幸六君） 先ほどの説明で、やっぱり平成27年以降、年間1,900万円の維持管理費が必要になるということなのですが、今現在、やっぱりこの企業も工場跡地の利用はされていません。

このまま放たつとくと、やはり赤字というのが膨らんで、赤字というと失礼ですけど、支出というのが膨らんでいくわけなんですね。ですので、一刻も早く、やっぱり工場跡地への誘致、これを進めて行っていただきたいというお願いと、それから今土壤汚染の問題がテキサスの後で発生しています。企業誘致に当たりまして、環境問題、それから騒音問題だとか、こういう土壤汚染問題だとか、いろんな環境問題が発生すると思いますので、ぜひ公害の少ない、問題の少ない企業の誘致というのを、今後考えてやっていただきたいというふうに思います。

甚だ簡単ですが、以上で私の質問を終わらせていただきます。

散会の宣告

○議長（熊谷 健作君） お諮りします。本日の一般質問は、これで打ち切り、あす定刻から一般質問を続けたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれで散会し、あす定刻から一般質問を続けることに決定しました。

本日は、これで散会します。御苦労さまでした。

午後3時38分散会
